

漢史一斑

二卷

TIAI

80

KJ71

漢史一斑 第二卷

小永井八郎 編

晉紀

姓ハ司馬氏始河南洛陽縣ニ
都シ、後陝西長安縣ニ遷ル

世祖武帝

諱ハ炎、字ハ昭、
安世、父ハ昭

晉泰始元年、晉王昭卒ス、
吳甘露元年

子炎嗣ク、皇帝ト稱ス、魏主ヲ廢シテ陳留王トス、

晉泰始二年、晉羊祜ヲ都督荊州諸軍事トシ、襄
陽ニ鎮ス

樂鄉ニ治ス、

晉泰始六年、吳陸抗ヲ都督軍事トシ、
吳鳳凰元年

ス、潘大ニ舟艦ヲ作ル、木枅江ヲ蔽テ下ル、吳ノ建

平、太守孫資、晉ノ吳ヲ攻ル計アルヲ知リ、建平ノ

図書 和図書 迦



a 1 3 8 0 3 2 3 6 1 2 a

福岡教育大学蔵書

其地スヲ請フ、吳王從ハス、彥乃鐵鎖ヲ爲リテ、
江路ヲ横斷ス、羊祜陸抗境ヲ對シ、使命常ニ通ス、
抗酒ヲ遺ル、祜飲テ疑ハス、抗疾ム、藥ヲ祜ニ求ム、
人多、諫ム、抗曰ク、豈人ヲ配スル羊叔子アラシヤ、
晉咸寧四年、晉ノ羊祜入朝ス、先ニ吳ノ陸抗死
吳天紀二年、祜吳ヲ伐ント請フ、議者多、同シカラス、祜歎シ
テ曰ク、天下意ノ如クナラサルコト十カ八九ト、是
ニ至テ吳ヲ伐ツノ計ヲ陳ス、晉主祜カ病ノルヲ
以テ卧ナカラ諸將ヲ護セシム、祜曰ク、吳ヲ取ル
ハ臣カ行クヲ須タス、但既ニ平クノ後當ニ聖慮

ヲ勞スヘキノミ、晉ノ太子睿睿愚嗣タルニ堪ヘス、
衛瓘陽リ醉テ晉主ノ前ニ跪キ、手ヲ以テ牀ヲ撫
テ曰ク、此座惜ムヘシ、晉主悟リ、因テ謬テ曰ク、公
眞ニ大醉スルカ、晉杜預ノ鎮南大將軍都督荊州
軍事トス、鉅平侯羊祜卒ス、南州ノ民市ヲ罷テ巷
哭ス、吳ノ守邊ノ將モ亦泣ク、
晉咸寧五年、晉
吳天紀三年、晉匈奴ノ劉淵ヲ左部帥トス、淵ハ并州境内ニ居ク所
ノ左賢王豹ノ子ナリ、五胡華ヲ亂ルノ禍此ヨリ
始ル、晉大舉シテ吳ヲ伐ツ、杜預ハ江陵ヨリ出テ、
王濬ハ巴蜀ヨリ下ル、太康元年、諸軍並ヒ進ム、

吳ノ丞相張悌戰死ス、王濬舟師ヲ以テ武昌ヨリ
下リテ、直ニ石頭ニ入ル、吳主皓降ル、杜預將ヲ遣
リ奇兵ヲ帥テ夜江ヲ渡ル、吳ノ將懼テ曰ク、北來
ノ諸軍飛ヒ渡ルカ、孫皓至ル、帝引見シテ謂テ曰
ク、朕此座ヲ設ケテ卿ヲ待ス、皓曰ク、臣南方ニ於
テ亦此座ヲ設ケテ陛下ヲ待ス、十一年、惠帝永
熙元年
帝崩ス、帝稍縱ナリ、後宮數千人アリ、帝常ニ羊車
ニ乗ル、宮人竹葉ヲ門ニ挿ミ、鹽ヲ洒テ帝ノ車ヲ
引ク、太子衷卽位ス、諱ハ衷字ハ正孝惠帝
度武帝ノ子元康元年、
皇后賈氏太傅楊駿ヲ殺シ、皇太后楊氏ヲ廢ス、帝

母尋テ之ヲ金墉城ニ弒ス、皇后太宰亮汝南王大保
衛瑾及楚王瑋ヲ殺ス、賈模張華裴頠ヲ侍中トス、
並ニ機要ヲ管ル、華忠ヲ帝室ニ盡シ、閹主虐后ニ
遇ヘトモ、頠ト心ヲ同クシテ匡輔ス、七年、王戎
ヲ司徒トス、戎三公トナリ、時ト浮沈ス、時ニ王澄
阮咸等皆任放ヲ達トス、王衍樂廣清談ヲ善ス、山
濤嘗テ衍ヲ見テ曰ク、何物ノ老嫗カ寧馨兒ヲ生
メル、然レトモ天下ノ蒼生ヲ悞ル者必シモ此人
ニ非スンハアラス、九年、侍中賈模卒ス、賈后淫虐
日ニ甚シ、模裴頠ト諫レトモ聽カス、憂憤シテ死

ス帝薨駭ナリ天下荒饑シ百姓餓死ス帝曰ク何
ノ肉糜ヲ食ハサル 永康元年皇后太子通ヲ殺
ス趙王倫皇后賈氏ヲ廢弒ス遂ニ司空張華僕射
裴頠ノ殺シ自相國トナル淮南王允倫ヲ討ス克
タスレテ死ス倫黃門_{侍中}潘岳衛尉石崇等ヲ殺シ
永寧元年趙王倫皇帝ト自稱シ帝ヲ金墉城ニ
遷ス黨與皆卿相トナル奴卒モ亦爵位ヲ加フ貂
蟬_{侍中}朝ニ滿ツ時人語テ曰ク貂不足狗尾
續齊王冏成都王穎河間王顒等ト兵ヲ舉テ倫ヲ
討ス倫伏誅ス冏政ヲ輔ク穎顒各鎮ニ還ル太

安元年河間王顒長沙王乂ヲレテ齊王冏ヲ殺サ
シム二年河間王顒成都王穎兵ヲ舉ケテ反ス
長沙王乂帝ヲ奉レテ穎ト戰フ穎カ前鋒陸機戰
敗ル因テ譖セラント收ハル歎レテ曰ク華亭ノ
鶴唳復聞ク可キカト弟雲ト皆穎ニ殺サル穎兵
ヲ進メテ京師ニ通ル 永興元年東海王越張方
ヲレテ長沙王乂ヲ殺サシム穎京師ニ入り自丞
相トナル己ニレテ鄴ニ還ル穎穎ヲ表シテ皇太
弟トス越帝ヲ奉レテ穎ヲ征ス穎蕩陰ニ拒戰ス
乘輿敗績ス侍中稽紹身ヲ以テ帝ヲ衛ノ殺サル

血帝ノ衣ニ濺ク、穎帝ヲ迎ヘテ鄴ニ入ル、左右帝
ノ衣ヲ浣ハント欲ス、帝曰ク、稽侍中ノ血浣フコ
ト勿シ、劉淵大單于ト自稱ス、淵ノ從祖其族人ニ
謂テ曰ク、司馬氏骨肉相殘シ、四海鼎沸ス、呼韓邪
ノ業ヲ復スルハ此其時ナリト、乃相與ニ謀リテ、
淵ヲ推テ大單于トス、幽州都督王浚、并州刺史東
嬴公勝兵ヲ起シテ、穎ヲ討ス、穎帝ヲ奉レテ洛ニ
還ル、李雄成都王ト自稱ス、劉淵漢王ト自稱ス、
帝ト稱ス張方帝ヲ長安ニ遷ス、顯太弟穎ヲ廢シ、豫章
王熾ヲ太弟トス、二年、東海王越自徐州都督ヲ

領シ、檄ヲ傳ヘテ張方ヲ討ス、光熙元年、頓丘太
守馮嵩成都王穎ヲ執ヘテ鄴ニ送ル、范陽王虓、鄴
ニ在リ、虓卒ス、長史劉輿穎ヲ誅シ、帝毒ニ中リテ
崩ス、或ハ曰ク、東海王越之ヲ鸩スト、太弟熾立ツ、
孝懷帝諱ハ熾、字ハ豐度、武帝ノ弟ニ十五子永嘉元年、太傅越出
テ、許昌ニ鎮ス、瑯琊王睿ヲ安東將軍都督揚州
諸軍事トシ、建業ニ鎮ス、睿王導ヲ謀主トス、導司
徒タリ、弟澄、荊州都督タリ、族弟敦、青州刺史タリ、
導曰ク、荊州江漢ノ固アリ、青州負海ノ險アリ、吾
中ニ居ル、三窟トナスニ足レ、以慕容廆、鮮卑大單

于ト自稱ス、四年、漢主淵卒ス、太子和立バ、其弟
繼弒シテ之ニ代ハル、拓跋猗盧ヲ代公トス、五
年、漢ノ石勒太傅越ヲ追破ス、勒襄陽ニ寇ス、越之
ヲ討ス、徵兵至ラス、憂懼シテ卒ス、衆王衍ヲ推シ
テ元帥トス、俄ニシテ舉軍敗レテ執ハル、衍自言
ス、少ヨリ官情ナシ、世事ニ豫ラスト、勒怒リテ曰
ク、君名望重任ニ居リ、少壯ヨリ白首ニ至ル、何ノ
世事ニ豫ラスト言ハレト、遂ニ殺サレ、漢人入寇
シテ、洛陽ヲ陷レ、帝ヲ平陽ニ遷ス、司寇荀藩秦王
鄴ヲ奉シテ許昌ニ赴ク、漢ノ劉曜長安ニ寇シ、遂

ニ之ニ據ル、瑯邪王睿周顒ヲ軍諮祭酒トス、桓彝
亂ヲ避テ江ヲ過ク、王導ヲ見テ曰ク、江左ニ管夷
吾ヲ見ル、復憂ナシ、六年、雍州刺史賈疋等進テ
長安ヲ圍ム、劉曜敗走ス、秦王鄴長安ニ入ル、漢ノ
石勒襄國ニ據ル、賈疋等秦王鄴ヲ奉シテ皇太子
トス、孝愍帝諱ハ鄴、字ハ彥旗、武帝ノ孫、吳王晏ノ子建興元年、漢主
劉聰懷帝ヲ平陽ニ弒ス、太子鄴長安ニ即位ス、瑯
琊王睿ヲ左丞相トシ、南陽王保ヲ右丞相トス、分
ツテ陝東西諸軍事ヲ督ス、祖逖少ヨリ大志アリ、
嘗テ劉琨ト同寢ス、中夜雞鳴ヲ聞キテ、琨ヲ蹴テ

曰ク此惡聲ニ非スト、因テ起舞ス江ヲ渡テ睿ニ
説ク睿乃千人ヲ給シ部曲ヲ將井テ江ヲ渡ラシ
ハ遼中流ニ楫ヲ擊テ曰ク祖遼中原ヲ清ムルコ
ト能ハスハ復濟ラス、二年張軌ヲ大尉涼州牧
トス、四年劉曜長安ヲ陷ル帝出テ降ル御史中
丞吉朗之ニ死ス、

東晉紀

宣帝ノ曾孫瑯琊恭王
勳ノ子、建業ニ都ス、

中宗元帝

諱ハ睿字ハ景文、睿母小吏牛金ニ通
ス、睿實姓ハ牛、時ニ牛馬ニ繼ク毀アリ、

建武元年丞相睿晉王ノ位ニ即ク漢主劉聰、愍帝

ヲ平陽ニ弑シ、太興元年漢主劉曜
光初元年王皇帝ノ位

ニ即ク、

二年、

後趙高祖
石勒元年

漢號ヲ趙ト改ム、石勒趙

王ト稱ス

是ヲ後
趙トス、

三年、

涼王張茂
永元元年

後趙ノ兵ヲ遣

ス、先ニ陳川叛ス、祖遼之ヲ救ス、祖遼進テ雍邱ニ屯ス、遼

新附ヲ撫納シ、兵ヲ練リ穀ヲ積ミ、河北ヲ取ルヲ

計ル石勒之ヲ患ヒ、乃幽州ヲ下レ、遼ノ爲ニ祖父

ノ墓ヲ修メ守塚ヲ置ク、遼ノ牙門童建降ル、勒軒

テ首ヲ遼ニ送ル、遼モ亦後趙ノ叛降ヲ納メトス、侵

暴ヲ禁シ、邊境ヲ安ニス、永昌元年王敦兵ヲ舉

テ及ス、敦征討ヲ總ヘ、王導機政ヲ專ニス、群從子

弟皆顯用セラレ、時人語テ曰ク王ト馬ト天下ヲ

共ニスト、後敦驕恣ナリ、帝之ヲ畏惡シ、劉隗ヲ協
ヲ引テ王氏ヲ抑損ス、敦益不平ナリ、遂ニ兵ヲ武
昌ニ舉ケ、隗協ヲ罪狀ス、導宗族ヲ帥ヰテ罪ヲ待
ツ、敦石頭ニ據ル、協隗等出テ戰ヒ、俱ニ敗ラル、冬
帝崩ス、太子紹卽位ス、肅宗明帝諱ハ紹、字ハ道
畿、元帝ノ長子
太寧二年涼王張駿
太元元年司徒王導ニ大都督ヲ加ヘ、諸
軍ヲ督シテ敦ヲ討ス、敦兵ヲ發シテ病ム、郭璞ニ
筮セシム、璞曰ク、明公事ヲ起シハ禍必久レカラ
ス、敦大ニ怒リテ曰ク、卿ノ壽幾何リ、璞曰ク、命令
日ノ日中ニ盡キン、敦之ヲ斬ル、帝夜諸軍ヲ帥ヰ

テ敦カ兄令ノ軍ヲ破ル、敦令ノ敗ヲ聞テ怒リ、因
テ作勢シテ自行カント欲ス、困乏シテ復卧ス、尋テ
死ス、其黨悉ク平ク、敦ノ死ヲ發シテ之ヲ斬ル、
三年、陶侃ヲ都督荆湘等州軍事トス、侃性聰敏、吏
治ニ勤ム、廣州ニ在テ、朝ニ百變ヲ齋外ニ運シ、暮
ニ齋内ニ運ス、曰ク、吾カラ中原ニ致サント欲ス、
故ニ勞ヲ習フ、帝崩ス、司徒王導中書令庾亮尚書
令下、盡遺詔ヲ受テ政ヲ輔ク、太子衍卽位ス、太后
朝ニ臨ミテ制ヲ稱ス、顯宗成帝諱ハ衍、字ハ世
祖、明帝ノ長子
咸和二年、蘇峻ヲ徵シテ大司農トス、峻祖約ト兵

ヲ舉テ及レ、姑敖ヲ陷ル、三年、後趙太尚書令于
壺軍ヲ督シテ峻ヲ討ス、戰敗レテ之ニ死ス、二子
相隨テ敵ニ赴テ死ス、母其尸ヲ撫テ曰ク、父ハ忠
臣タリ、子ハ孝子タリ、何ソ恨ミシ、庾亮出奔ス、峻ノ
兵闕ヲ犯ス、陶侃温嶠入リテ峻ヲ討ス、峻帝ヲ石
頭ニ遷ス、侃嶠峻ヲ擊テ之ヲ斬ル、七年、前趙已
前年後趙ノ石趙主石勒大ニ群臣ヲ饗ス、問テ曰
ク、朕ハ古ノ何等ノ主ニ比セシ、或曰ク、漢高ニ過
キタリ、勒笑テ曰ク、人豈自知クサラシヤ、高帝ニ
遇ハ、北面レテ之ニ事ス、ハシ、光武ニ遇ハ、中

原ニ並ヒ驪ルヘシ、未、鹿ノ誰カ手ニ死スルヲ知
ラス、咸康四年、漢、李壽漢興元年、代、什翼健建國九年、更メノ王導
ヲ丞相トシ、明年卒ス、五年、庾冰ヲ中書監楊州
刺史トシ、尚書事ヲ參錄セシム、七年、慕容皝ヲ
燕王トス、八年帝崩ス、瑯琊王岳即位ス、康帝
譚ハ岳、字ハ世建元元年、中原ヲ經略スルヲ議ス
同成帝ノ弟、庾翼胡ヲ滅シ、蜀ヲ取ルヲ已カ任トシ、桓宣ヲ表
シテ諸軍ヲ督セシム、宣趙ノ兵ト丹水ニ戰テ敗
績シ、慙憤シテ卒ス、二年、帝崩ス、太子聃即位ス、
太后朝ニ臨ム、穆宗穆帝譚ハ聃、字ハ穆、永初元年、

年、會稽王昱ヲ撫軍大將軍トシ、尚書事ヲ録セシム。桓溫ヲ都督荆梁等州軍事トス。庾翼病ム、何充曰ク、荆楚ハ國ノ西門、桓溫英略人ニ過キタリ、西任溫ニ過クル者ナレ、劉惔昱ニ謂テ曰ク、溫ハ形勝ノ地ニ居ク可カラス、昱聽カス、張駿自涼王ト稱ス、五王ニ傳テ秦王二年、桓溫師ヲ帥、并テ漢ヲ伐ツ、漢主李勢降ル、五年、趙太寧元年、趙主石虎、萬元年、是歲石滿洪降ル、趙其都督ヲ罷ムルヲ以テナリ、明年自、三秦王ト稱ス、姓ヲ符ト改ム、七年、秦王苻健皇始ヲ、苻健秦天王ト自稱ス、八年、是歲趙亡、

慕容儁、苻健並殷浩楊州刺史、退テ壽春ニ屯ス、浩北伐シテ功ナシ、復再舉ヲ謀ル、中軍將王羲之書ヲ遺リテ止ムレトモ從ハス、九年、殷浩兵ヲ遣リテ姚襄ヲ襲フ、克タス、遂ニ諸軍ヲ率、并テ北伐ス、襄邀ヘテ之ヲ敗ル、浩熊城ニ走ル、襄ハ弋仲ノ子、先ニ來歸シ、歷陽ニ屯田ス、浩其疆域ヲ惡テ是ニ至ル、十年、源王張祚和平元年、殷浩ヲ免レテ廢人トス、浩北伐シテ屢敗ル、廢セラレテ内私ニ愁怨ス、桓溫書ヲ遺リテ再用セントス、浩喜ヒ答書ニ、謬誤アラシコトヲ慮リテ、閉閉スルコト十數、竟ニ空函ス

達ス、温大ニ怒ル、是ニ由テ遂ニ絶ス、桓温師ヲ帥
井テ秦ヲ伐チ、大ニ秦ノ兵ヲ藍田ニ敗ル、進ミテ
灊上ニ軍ス、三輔皆降ル、北海ノ王猛温ニ謁ス、
ヲ捫リ當世ノ務ヲ談ス、温載セテ與ニ還ラント欲
ス、猛就カス、十二年桓温ヲ征討大都督トシ、姚
襄ヲ討ス、温進テ河上ニ至リ、中原ヲ望テ曰ク、神
州陸沈スルコト百年、王夷甫諸人其責ニ任セサ
ルヲ得スト、伊上ニ至ル、襄敗走ス、温金墉ニ屯ル
諸陵ニ謁シ鎮戍ヲ置テ還ル、襄尋テ秦ノ兵ニ斬
ラル、弟萇秦ニ降ル、秦ノ苻堅其君生ヲ弑シ、大秦

天王ト自稱ス、王猛ヲ見テ大ニ悦ブ、四年、桓温
謝安ヲ征西司馬トス、安少ヨリ重名アリ、徵辟皆
就カス、士大夫相謂テ曰ク、安石出テスンハ、蒼生
ヲ如何ンセン、五年、帝崩ス、瑯邪王丕即位ス、
哀皇帝諱ハ丕、字ハ十一興寧元年、桓温郗超ヲ參軍
トシ、王珣ヲ主簿トス、每事必二人ト謀ル、府中語
テ曰ク、鬻參軍、短主簿、能使公喜、能使公怒、超ハ鬻
アリ、珣ハ短キ故ナリ、三年、帝崩ス、瑯邪王奕卽
位ス、帝奕諱ハ奕、字ハ延齡、表帝ノ太和四年、桓
温師ヲ帥井テ燕ヲ伐チ、枋頭ニ戦フ、利アリ、スニ

テ還ル、燕ノ慕容垂既ニ晋ノ軍ヲ枋頭ニ破リ、威
名益振入、燕王^{慕容}之ヲ忌ム、垂秦ニ奔ル、五年^{慕容}、
秦ノ王猛諸軍ヲ督シテ燕ヲ伐ツ、秦王苻堅鄴
ニ入リ、燕王暉ヲ執テ歸ル、太宗簡文帝^苻、道
元帝^苻咸安元年、大司馬溫入朝シテ、帝ヲ廢シ、會
稽王昱ヲ迎立ス、溫枋頭ノ敗ヨリ威名頓ニ挫ク、
郗超伊霍ノ舉ヲ爲テ、威權ヲ立ツルヲ勸ム、溫遂
ニ入朝シ帝ヲ廢ス、二年、帝崩ス、太子曜卽位ス、
烈宗孝武帝^{司馬}、寧康元年、大司馬
溫入朝ス、人情恟々々々、謝安神色變ヒス、從容ト

シテ溫ト語ル、郗超帳中ニ在リ、風動テ帳開ク、安
笑テ曰ク、郗超ハ入幕ノ賓ト謂フヘシ、溫疾アリ
テ姑孰ニ還ル、尋テ卒ス、三年、秦ノ丞相王猛卒
シ、猛終ニ臨テ堅ニ謂テ曰ク、晋江南ニ僻處スト
雖正朔相承ク、上下安和ス、願クハ晋ヲ圖ルコト
勿レ、堅哭シテ曰ク、天何ソ吾景略ヲ奪フコトノ
速ナルヤ、太元二年、謝玄北軍事ヲ監ス、時ニ秦
寇ヲ憂ス、謝安兄ハ子玄ヲ舉ク、八年、秦大舉シ
テ入寇ス、此舉ヤ中外皆諫ム、堅曰ク、吾鞭ヲ江ニ
投スルヲ、其流ヲ斷ツヘシト、我ハ征討大都督、謝石

前鋒都督謝玄之ヲ拒ク、劉牢之精兵ヲ帥、井ヲ洛
澗ヲ渡ル、石等水陸ヨリ進ム、堅晋兵ノ部伍整ヲ
ヲ望ミ、又八公山ノ艸木ヲ見テ皆兵ナリト以テ始
テ懼ル、秦兵淝水ニ逼テ陣ス、玄謂ハレメテ曰ク
陣ヲ移シテ少ク却ソク、我兵渡リテ勝負ヲ決セ
シ、堅晋兵ノ半渡ル時之ヲ蹙メントシ、其兵ヲ蹙
テ却ク、兵退テ復止ム可ラス、我陣將朱序其陣後
ニ呼ハリテ曰ク、秦兵敗ルト、遂ニ潰ニ、玄等勝ニ
乘テ追撃ス、秦兵大ニ敗レテ走ル、九年慕容垂
燕王ト自稱ス、後燕秦ノ司馬姚萇、秦王ト自稱ス、

後秦
トス 十年、燕ノ慕容冲帝ヲ阿房ニ稱シ、西燕長
安ヲ攻ム、秦主苻堅出奔ス、後秦主萇執ヘテ之ヲ
殺ス、堅ノ子丕帝ヲ晋陽ニ稱ス、乞伏國仁單于ト
自稱ス、西秦トス 十一年、拓拔珪復立テ代王トナル、
珪ハ代王什翼犍ノ孫、國亂ヲ避ケ母ト走リテ劉
庫仁ニ依ル者ナリ、後魏ト改稱シ、終ニ帝ト稱ス、
秦ノ苻登丕カ死ヲ聞テ、帝ヲ南安ニ稱ス、二十
年、丹陽尹王雅ヲ太子少傅トス時ニ會稽王道子
專權奢縱ナリ、帝雅及王恭殷仲堪王珣等ヲ内外
ノ要任ニ居キテ之ヲ防ク、二十一年、燕慕容寶
元年魏元

年三河王呂光涼天王ト自稱ス貴人張氏帝ノ清
暑殿ニ弒ス太子德即位ス帝張氏ニ戲レテ曰ク
汝モ年ヲ以スレハ亦廢スヘシ貴人婢ヲシテ之
ヲ弒セシム安帝諱ハ德字ハ武帝ノ長子隆安元年禿髮
烏孤西平王ト自稱シ涼ヲ攻テ金城ヲ取ル南涼トス
王恭上表シテ王國寶等ヲ罪狀シ兵ヲ舉ク詔シ
テ國寶ニ死ヲ賜ヒ王緒ヲ市ニ斬ル涼ノ段業叛
ス沮渠蒙遜之ニ歸ス後涼王ト稱ス北涼トス二年慕容德燕
王ト稱ス南燕トス王恭殷仲堪桓玄反ス恭カ司馬劉
牢之恭ヲ執ヘテ降ル二年孫恩寇シテ會稽ヲ

陷ル劉牢之ノ參軍劉裕勇健大志アリ賊ヲ撃ツ
之ヲ敗ル恩逃ル後海陵王ト稱ス其黨トス四年此
西秦秦北涼ノ李暠涼公ト自稱ス西涼トス五年沮
渠蒙遜張掖公ト自稱ス亦北涼ト稱ス後主ト稱ス元興元
年桓玄反ス初玄父溫ニ嗣テ南郡公トナリ雄豪
自處ル遂ニ兵ヲ舉テ建康ニ入リ會稽ノ世子元
顯ヲ殺シ又道子ヲ殺ス二年是歲涼桓玄自相
國トナリ楚王ニ封ヒラル遂ニ玄皇帝ト稱シ帝
ヲ廢レテ尋陽ニ遷ス御座ニ登テ床忽陷ル三
年劉裕兵ヲ京口ニ起シテ玄ヲ討ス裕何無忌劉

毅ト與ニ謀ヲ定メ、徒衆ヲ收合ス、玄憂懼特ニ甚
シ、裕進ミテ玄ノ兵ヲ破ル、玄出走ス、首ヲ江陵ニ
斬ル、帝復位ス、義熙元年劉裕ヲ都督十六州軍
事トス、三年、赫連勃勃秦ニ叛シ、朔方ニ據ル、大夏
天王ト稱ス、勅々ハ匈奴ノ劉衛辰ノ子ナリ、五
年、劉裕南燕ヲ伐テ大ニ之ヲ破ル、魏ノ清河王紹
其君珪ヲ弑ス、齊王嗣紹ヲ討殺シテ自立ス、六
年、是歲南燕亡ス劉裕廣固ヲ拔テ南燕王超ヲ執ヘ、建康
ニ送テ之ヲ斬ル、盧循裕カ北伐スルヲ聞テ、長沙
南康廬陵豫章ヲ攻陷ス、裕軍ヲ引テ還ル、何無忌

徐道覆ヲ討テ戰死ス、諸軍力戰シテ遂ニ循ヲ
退ク、裕追テ之ヲ破ル、循走ル、遂ニ斬ラル、十年
乞伏熾盤南涼ヲ滅ス、十二年、太尉劉裕秦ヲ伐
ツ、王鎮惡檀道濟軍ヲ將、并テ秦ノ境ニ入り、遂ニ
洛陽ニ克ツ、十三年、是歲秦亡ス劉裕潼關ニ至リ、王
鎮惡ヲ遣リテ渭ヲ渡リ、入リテ大ニ秦ノ兵ヲ破リ、
遂ニ長安ニ入ル、秦主泓出テ降ル、建康ニ送テ之
ヲ斬ル、裕子義真ヲ留メテ都督雍梁秦州軍事ト
シテ、東ニ還ル、明年夏王勃勃長安ヲ陷ル、義真逃
レ歸ル、十四年、劉裕帝ヲ弑シテ、瑯邪王德文ヲ

立ッ 恭帝諱ハ德文元熙二年宋高祖武帝宋王

劉裕皇帝ト稱シ、帝ヲ廢シテ零陵王トス、裕宋公

ヨリ爵ヲ進ム是ニ至テ晋ノ禪ヲ受ク、秘書監徐

廣悲感流涕ス、侍中謝誨曰ク、徐公小過ナカラン

ヤ、廣曰ク、君ハ宋朝ノ佐命身ハ晋室ノ遺老、悲歡

同シカラス、

宋紀姓ハ劉氏、北朝魏附ス

高祖武帝諱ハ裕、字ハ德、宋永初二年是歲北凉

宋ノ豫章太守謝瞻卒ス、瞻ノ弟晦顯遇セラレ、賓

客輻湊ス、瞻驚テ晦ニ謂テ曰ク、汝名位未多カラ

ス、而ルニ乃爾リ豈門戶ノ福ナランヤ、三宋主

裕殂ス、小帝諱ハ義符、武、景平魏主嗣殂ス、太

子肅立ッ、太祖文帝諱ハ義隆、高、元嘉元年、魏

光元宋ノ徐羨之傅亮謝晦其主義符ノ廢弒シ、宜

都王義隆ヲ迎立ス、三宋徐羨之傅亮ヲ討殺ス、

謝誨兵ヲ舉テ反ス宋主自將トシテ晦ヲ討殺ス、

四晋ノ徵士陶潛卒ス、潛字ハ淵明、彭澤令タリ、

郡ノ督郵至ル吏束帶シテ見エシム、潛歎シテ曰

ク我豈五斗米ノ爲メニ郷里ノ小兒ニ腰ヲ折テ

シヤト、即日印綬ヲ解テ去ル、先世晋ノ臣タルヲ

共

以テ復仕ヘス卒ンテ靖節先生ト號ス、七年宋到
彦之ヲ遣リテ魏ヲ伐シ彦之等河南ヲ取ル諸將
皆喜ス王仲德憂テ曰ク諸君此土ノ情僞ヲ諳ン
セス必其計ニ墮チン冬果ンテ南侵ス宋ノ檀道
濟衆ヲ帥井テ魏ヲ伐シ到彦之軍ヲ棄テ走ル
魏宋ノ滑臺ヲ攻ム道濟食盡キテ引キ還ル十
三年前年泰夏皆亡フ是歲宋其司徒檀道濟ヲ殺
ス道濟功ヲ前朝ニ立テ兵ヲ用井ルニ長ス讒ヲ
以テ收ヘラル目光炬ノ如シ憤ヲ脱シ地ニ投レ
テ曰ク汝ノ萬里長城ヲ破ルト魏人之ヲ聞テ喜

ス、二十七年魏其ノ司徒崔浩ヲ殺ス浩自才略ヲ恃
ミ朝權ヲ專ニス魏主命シテ國史ヲ修メシム浩
務テ實錄ニ從ヒ石ニ刊シテ直筆ヲ彰ハス北人
忿恚シ國惡ヲ暴揚スト譖ス帝怒テ浩ヲ案誅ス
宋ノ王玄謨勸メテ魏ヲ伐タシム沈慶之曰ク耕
ハ奴ニ問ヒ織ハ婢ニ問フヘシ國ヲ伐ツニ柰何
ソ白面ノ書生ト謀ル玄謨進テ滑臺ヲ圍ム魏之
ヲ救フ衆百萬ト號ス玄謨懼テ走ル魏主追進シ
テ江ヲ渡ラントス建康震懼ス宋主歎シテ曰ク
檀道濟若在ラハ胡馬ヲシテ此ニ至ラシメンヤ

明年魏ノ師還ル 二十九年、魏ノ中常侍宗愛其君壽

ヲ弒ス魏主濬立テ愛ヲ誅ス 三十一年、宋ノ太子劬

其君義隆ヲ弒ス、武陵王駿劬ヲ討誅シテ立ツ、

世祖孝武帝 諱ハ駿、文帝三年、宋ノ金紫光祿大

夫顔延之卒ス延之ノ子駿貴重ナリ賓客門ニ盈

ツ、延之曰ク、吾平生要人ヲ見ルヲ喜ハス、今不幸

ニシテ汝ヲ見ル、 八年、宋主駿殂ス、前廢帝 諱ハ

孝武帝廢帝景和元年魏主濬殂ス、太子弘立ツ、

宋主恣睢不道ナリ、遂ニ其左右ニ殺サル、湘東王

或ヲ立ツ、太宗明帝 諱ハ或、文帝泰始二年、魏

宏延興元年宋蕭道成ヲ散騎常侍トス、魏主弘位ヲ太

子宏ニ傳ヘ、太上皇帝ト稱ス 泰豫元年、宋主或殂ス、

後廢帝 諱ハ昱、明元徽元年、魏魏ノ太后馮氏

其主弘ヲ弒ス、順帝 諱ハ準、明帝昇明元年、魏

宋ノ中領軍蕭道成其主昱ヲ弒シ、安成王準ヲ立

テ、自司空トナリ、尚書事ヲ録ス、宋主嘗テ直ニ領

軍府ニ入ル、道成晝卧裸袒ス、昱起立セシメ腹ヲ

射ントス、道成曰ク、老臣罪ナシ、乃更ニ斃箭ヲ以

テ射テ其臍ニ中ツ、道成憂懼ス、密ニ廢立ヲ謀リ、

遂ニ之ヲ弒ス、袁粲等謀テ道成ヲ誅セントス、褚

遂ニ之ヲ弒ス、袁粲等謀テ道成ヲ誅セントス、褚

淵之ヲ道成ニ告ク衆父子俱ニ石頭城ニ殺サル
三年齊太祖蕭道成建元元年宋ノ蕭道成自相國齊公トナル
己ニシテ王トナル遂ニ皇帝ト稱ス宋主廢セラ
ル泣テ曰ク願クハ世々復天王ノ家ニ生ルコト
勿ラン

齊紀

姓ハ蕭氏建業ニ都ス北朝魏附ス

太祖高帝

諱ハ道成字ハ紹伯漢ノ蕭何ノ後

建元二年

齊褚淵ヲ司徒

トス淵入朝ス腰扇ノ以テ日ヲ障フ劉祥曰ク此
ノ如キ舉止人ヲ見ルヲ羞ルナラン淵曰ク寒士
不遜ナリ祥曰ク袁粲劉秉ヲ殺スコト能ハス安

ソ寒士ヲ免レン

四年

齊主道成歿ス齊主沈深大

略アリ性清儉ナリ毎ニ曰ク我天下ヲ治ムルコ

ト十年ナレハ黄金土ト價ヲ同スヘレ世祖武

帝

諱ハ頊字ハ宣遠高帝ノ太子

永明三年

齊王儉ヲ以テ國子祭酒

ヲ領セシム宋ノ世祖文章ヲ好ムヨリ士大夫經

ヲ專ニスル者ナシ儉禮學春秋ヲ好ミ言論必儒

者ニ於テス衣冠翕然トシテ儒術ニ向ス

齊王頊歿ス

廢帝鬱林王

諱ハ昭業太子長子立チテ一年蕭鸞

之ヲ弑シ新安王昭文ヲ立ツ是ヲ廢帝海陵王トス在位四月鸞又廢弑シテ自立ス高宗

明帝

名ハ鸞高帝ノ兄道生ノ子

建武三年

魏姓ヲ元ト改ム魏主

好ミテ書ヲ讀ミ、賢ヲ好シ、善ヲ樂ム、禮樂鬱然ト
シテ太平ノ風アリ、後四年ニシテ殂ス、太子恪立
ツ、永泰元年齊主鸞殂ス、太子寶卷立ツ、喪ニ在テ禮
ナシ、毎ニ喉痛ト云テ哭セス、廢帝東昏侯諱ハ寶卷
明帝ノ第二子、帝恪景明元年齊主昏淫狂恣ナリ、金
蓮花ヲ爲リテ、地上ニ帖シ、繡妃ヲレテ其上ニ步
セシメテ曰ク、歩々蓮花ヲ生ス、雍州刺史蕭衍兵
ヲ起シ、進テ建康ヲ圍ム、先ニ南康王寶融齊主ヲ
廢シテ自立ス、即和皇帝ナリ、衍入テ大司馬トナ
ル、

梁紀

姓蕭氏、齊ノ疎族、建康ニ都ス

高祖武帝

諱ハ衍、字世達

天監元年

蕭衍自相國梁公トナ

ハ、遂ニ皇帝ト稱シ、

齊主ヲ廢弒ス、

六年

梁徐勉ヲ

吏部尚書トス、勉嘗テ門人ト夜集ス、客官ヲ聚ム、

勉色ヲ正クシテ曰ク、今夕風月ヲ談スヘシ、公事

ニ及フ可カラス、

十四年

魏主恪殂ス、太子詡立ツ、

大通二年、魏武帝泰元年、魏ノ胡太后其主詡ヲ毒

殺シ、臨洮王ノ世子釗ヲ立ツ、魏ノ車騎將軍六州

大都督爾朱榮兵ヲ晉陽ニ舉ク、長樂王子攸孝文

ヲ立テ、太后及幼主釗ヲ河ニ沈メ、自都督中外諸

軍事太原王トナリ、晉陽ニ還ル、北海王顥梁ニ走
ル、梁之ヲ立テ、魏主トシ、沈慶之ヲシテ兵ヲ將
シテ洛陽ニ納レシム、中大通魏主子攸出奔ス、
爾朱榮來リ救フ、魏王顥走死ス、子攸洛陽ニ還ル
梁主同泰寺ニ捨身ス、建明元年、魏ノ爾朱榮
伏誅ス、榮不臣ノ志ヲ蓄フ、魏主謀テ兵ヲ伏セテ
之ヲ斬ル、爾朱世隆反シ、長廣王曄ヲ立テ、洛陽
ニ入リ、其主子攸ヲ放弑ス、後謚シテ莊帝ト曰フ、
三年、魏節閔帝、魏ノ爾朱世隆其主曄ヲ廢シ、廣
恭普泰元年、魏ノ冀州刺史高歡兵ヲ起シ、爾朱
陵王恭ヲ立シ、魏ノ冀州刺史高歡兵ヲ起シ、爾朱

氏ヲ討テ、歡元朗ヲ立テ、自丞相トナル、四年
魏武帝修、魏ノ高歡其主恭及朗ヲ廢シ、平陽王修
永熙元年、魏ノ高歡其主恭及朗ヲ廢シ、平陽王修
ヲ立テ、自丞相トナル、爾朱兆ヲ討殺シ、遂ニ
晉陽ニ據ル、六年、東魏孝靜帝善見天、魏ノ高歡
兵ヲ引テ洛陽ニ入ル、主修長安ニ奔テ、宇文泰ニ
依ル、泰大丞相トナル、尋テ脩ヲ毒弑ス、歡清河王
ノ世子善見ヲ立シ、是ヲ東魏トス、尋テ鄴ニ遷ル
大同元年、魏文帝魏ノ大丞相泰南陽王寶炬ヲ
寶炬大統元年、魏ノ大丞相泰南陽王寶炬ヲ
立シ、魏武帝定四年、東魏ノ大丞相渤海王高歡卒
フ、歡病篤シ、子澄ニ謂テ曰ク、侯景飛揚跋扈ノ志

アリ、景ニ敵スル者ハ唯慕容紹宗ノミ、景果シテ
河南ヲ以テ魏ニ降ル、復叛テ梁ニ附ス、群臣皆納
ル、コトヲ欲セス、梁主曰ク、我國家ハ金甌ノ如
シ、景ヲ納レテ紛紜ヲ致セハ悔ムトモ何リ、及ハシ、朱
昇勳テ之ヲ納ル、二東魏ノ慕容紹宗侯景ヲ擊
ツ、景敗走ス、南襲シテ壽春ニ據ル、梁就テ南豫州、
刺史トス、東魏成ヲ梁ニ求ム、景疑テ反シ、兵ヲ引
テ南渡シ、建康ヲ圍ム、江左久シク無事ナリ、梁主
佛法ヲ崇ミテ上下俱ニ化ス、援兵ノ至ル者皆敗
ル、三年、侯景臺城ヲ陷ル、景入見ス、梁主神色變セ

ス、シテ曰ク、卿久シク軍中ニ在リ、勞スルコト母
ランヤ、景敢テ仰キ見ス、汗流レテ面ニ被フル、退
テ曰ク、吾鞍ニ跨リ、陣ニ對シ、矢石交下ルモ怖心
ナシ、今蕭公ヲ見ルニ自惜レシム、梁主景ニ制セ
ラレ、憂憤シテ疾ヲ成ス、口苦シ、蜜ヲ索ムルニ得
ス、荷ヤト曰テ歿ス、梁ノ始興太守陳霸先兵ヲ起
シテ侯景ヲ討ス、太宗簡文帝諱ハ綱武帝ノ弟
三子、昭明太子ノ
母弟大寧元年、齊文宣帝高洋天保東魏ノ高洋
ナリ、元年、是歲東魏セス、齊代ル、
自丞相トナリ、齊王ニ封セラル、先ニ高澄其下ニ
殺サル、洋賊ヲ討ス、是ヨリ勢權洋ニ歸ス、遂ニ皇

帝ト稱シ、東魏主ヲ廢弒ス、魏蕭詠ヲ立テ梁主ト
ス、年二魏主寶炬殂ス、太子欽立ッ、侯景主綱ヲ廢
弒シ又立ツル所ノ豫章王棟ヲ廢シテ、漢帝ト自
稱ス、世祖孝元帝韓ハ繹武帝ノ第七子、承聖元年、魏梁
ノ湘東王繹王僧辯陳霸先ヲシテ侯景ヲ討セシ
ム、景敗レテ吳ニ走リ、將ニ海ニ入ラントス、其下ニ
殺サル、景ノ尸ヲ建康ノ市ニ暴ス、士民爭ヒ取テ
之ヲ食ス、骨ヲ并セテ皆盡ク、梁主繹立ッ、江陵ニ即位ス、
年二梁ノ武陵王紀帝ヲ成都ニ稱シ、東下シテ江
陵ヲ伐ッ、魏成都ヲ伐テ之ヲ救フ、紀敗レテ殺サ

ハ成都魏ニ降ル、三年、魏恭帝廓元年、魏ノ宇文泰其主欽
ヲ廢シ、齊王廓ヲ立ッ、魏柱國于謹ヲ遣リ、師ヲ帥
井テ梁ヲ伐テ、江陵ニ入ル、城陷ル、梁主古今ノ圖
書十四萬卷ヲ焚テ曰ク文武ノ道今夜盡ク、魏襄
陽ヲ取リ、梁主詒ヲ江陵ニ徙シ、帝ト稱セシム、是
ヲ後梁トス、魏ニ臣ト稱ス、梁ノ王僧辯陳霸先晉
安王方智ヲ奉シテ制ヲ承ク、敬帝諱ハ方智元帝ノ第九子、
紹泰元年、後梁宣帝蕭詠天定元年、齊梁ノ貞陽侯淵明ヲ遣リ還
シテ帝ト稱セシム、王僧辯之ヲ奉レ建康ニ歸ル、
陳霸先僧辯ヲ殺シ、淵ヲ廢シテ、方智ヲ立ッ、魏ノ

太冢宰安定公宇文泰卒、世子覺嗣、久泰性質素政事、明達、儒、崇、古、好、人、凡、施設、ス、ル、所、皆、三代、ニ、依、放、ス、覺、自、周、公、ト、ナル、

陳紀 姓ハ陳氏、建康ニ都ス、

高祖武帝 諱ハ興國、三年、陳永定元年、周、廢、帝、字、

西魏亡、魏ノ周公覺天王ト稱シ、魏主ヲ廢ス、字

文護、自、大司馬トナル、既ニシテ覺ヲ弒シ、寧公毓

ヲ立シ、陳霸先自、相國トナリ、陳公ニ封セラレ、尋

テ王トナリ、遂ニ皇帝ト稱シ、梁主ヲ廢ス、三年、周武

德元年、陳主霸先歿ス、兄ノ子臨川王倩立シ、周主始

テ皇帝ト稱シ、齊主洋歿ス、太子殷立ツ、世宗文

帝 諱ハ長子、兄、天嘉元年、齊主殷、乾明、周ノ

冢宰護其君毓ヲ弒シテ、其弟魯公邕ヲ立シ、齊ノ

帝山王演其主殷ヲ廢シテ自立ス、二年、周武帝

齊武帝、齊主演歿ス、弟長廣王湛立ツ、六年、齊後

主、統、元、年、齊主湛位ヲ太子緯ニ傳ヘ、自太上皇帝ト

稱ス、天和元年、陳主倩歿ス、太子伯宗立シ、陳

主性明察勤儉、艱難ヨリ起リテ民ノ疾苦ヲ知ハ

高宗宣帝 諱ハ項始興、大進、陳主項立ツ、其、前、年、

伯宗、陽海王トス、九年、齊主恒、承、光、齊主緯位ヲ太子

恒ニ傳ス周ノ師鄴ヲ圍ム緯出走ス周主鄴ニ入
 ル齊主嬖寵多シ政亂ル嘗テ周ノ使ヲ留ム此ニ
 至テ周主齊ヲ伐ツ齊主大ニ敗走ス周遂ニ齊ヲ
 滅ス十年周宣帝周主邕殂ス太子贊立ツ周主
 深沈ニシテ遠識アリ政事嚴明賢主ト稱ス二十
 年周靜帝開周主贊殂ス聞立ツ隋公楊堅自大丞
 相トナリ朝政ヲ總ス尋テ隋王ニ進爵ス十二
 高祖文帝楊隋王堅皇帝ト稱ス周主廢セラレ介
 公トナル尋テ弑セラル十四陳主頊殂ス太子
 叔寶立ツ後主諱ハ叔寶宣至德陳主臨春結
 帝ノ長子元年

綺望仙閣ヲ起ス皆沈檀ヲ以テ爲ル珠簾寶帳服
 玩瑰麗ナリ陳主張貴妃龔孔ノ二貴嬪ト分レテ
 之ニ居ル江總ヲ宰相トシ政事ヲ親ラセ孔範等
 ノ文士ヲ狎客ト謂テ侍宴セシメ諸貴嬪ト相唱
 和ス其曲王樹後庭アリ三隋初テ義倉ヲ置ク
 梁主歸殂ス太子琮立ツ隋之ヲ二隋晉王廣ヲ
 元帥トシ師ヲ帥升テ陳ヲ伐テ之ヲ滅ス陳主隋
 兵ノ來ルヲ聞テ曰ク王氣此ニ在リ彼何爲ン
 隋兵朱雀門ニ入ル陳主自井ニ投ス軍人繩ヲ以
 テ引ク張貴妃孔貴嬪ト同束シテ上ル隋ノ將賀

若弼韓擒虎ニ獲ラル、

隋紀

姓ハ楊氏陝西長安縣ニ都ス東晉分裂ヨリ此ニ至テ始テ混一ス

高祖文帝

諱ハ堅

開皇二十年太子勇ヲ廢シ晉王廣

ヲ立テ太子トス、勇率意情ニ任ス、服用侈靡帝之

ヲ戒ム、廣彌自矯飾シ、嫡ヲ奪フノ計アリ、獨孤后

帝ヲ賛シテ遂ニ勇ヲ廢ス、仁壽三年龍門ノ王

通太平十二策ヲ獻ス、通河汾ノ間ニ教授シ、弟子

甚衆シ、四年、太子廣帝ヲ弒シテ自立ス、帝不豫

ナリ、太子廣預帝カ死後ノ事ヲ書シテ僕射楊素

ニ問ハ、答書誤テ帝ノ所ニ送ル、帝覽テ大ニ恚ハ

太子嘗テ帝ノ寵妃陳夫人ニ逼リ、帝夫人ノ神色

異ナルヲ惟テ之ヲ問フ、夫人泣然トシテ曰ク、太

子無禮ナリト、帝恚テ床ヲ抵テ曰ク、畜生何ソ天

下ヲ付スルニ足ランヤ是ニ於テ太子右廢子張

衡ヲシテ帝ヲ弒セシメ、勇ヲ縊殺ス、煬帝諱ハ

字ハ阿摩、大大業元年、東京ノ宮室ヲ營ム、濟渠ヲ

開キ、長安ノ西園ヨリ穀洛ノ水ヲ引テ、遠ク淮ニ

達ス、邗溝ヲ開キテ江ニ入リ、旁ニ柳ヲ樹ク、其間

離宮ヲ置ク四十餘所、帝龍舟ニ御シテ江都ニ如

ク、過ル所皆食ヲ獻セシム、後宮水陸ノ珍奇ニ厭

飲シ、多クハ之ヲ棄埋ス、營造巡遊虛歲ナレ、六年諸蕃來朝ス、百戲ヲ端門ニ陳レテ之ニ示シ、高麗王元ヲ徵ス、至ラス、七年帝自將トシテ高麗ヲ擊ツ、天下ノ兵ヲ涿郡ニ會ス、民夫漕運晝夜絶エス、天下騷動ス、王儼張金稱高士達竇建德等ノ兵起ル、高麗ヲ擊テ大敗シテ還ル、九年帝復高麗ヲ擊ツ、楚公楊玄感黎陽ニ督運シ、遂ニ反ス、帝還テ之ヲ擊ツ、玄感敗死ス、十年帝又高麗ヲ擊ツ、高麗降ヲ請フ、十二年翟讓李密ノ兵起ル、密少クシテ才略アリ、志氣雄遠ナリ、嘗テ楊玄感ト

游ス、玄感敗レテ、密亡匿ス、遂ニ群盜翟讓等ト起テ、滎陽ヲ攻下ス、鄴陽ノ林士弘楚帝ト稱シ、江南ニ據ル、恭帝諱ハ侑文帝ノ孫、元德太子ノ子、十三年、恭帝恭帝義寧元年竇建德長樂王ト稱ス、後國號ヲ夏ト改ム、秦王世民擊テ之ヲ斬ル李密洛興倉ニ據テ、河南諸郡ヲ略取シ、魏公ト稱ス、突厥馬邑ノ校尉劉武周ヲ立テ、定楊可汗トス、朔方ノ郎將梁師都梁帝ト自稱シ、金城ノ校尉薛舉兵ヲ隴西ニ起ス、西秦霸王ト自稱ス、李淵兵ヲ太原ニ起ス、淵四男ヲ生ム、建成、世民、玄霸、玄吉、世民聰明勇決ニシテ、識量人ニ過ク、隋室ノ亂ルヲ見テ、

陰ニ天下ヲ安スルノ志アリ劉文靜世民ニ謂テ
曰ク主上南巡シ李密東都ヲ圍ミ郡盜蜂起ス若
驅駕シテ之ヲ用井太原ノ豪傑ヲ收集シ兵ヲ并
テ關ニ入り天下ニ號令セハ帝業成ラシ世民笑
テ曰ク此我意ナリト入テ淵ニ說ク淵大ニ驚テ
聽カス世民復說ク淵歎シテ曰ク汝カ言大ニ理
アリ家ヲ破リ軀ヲ亡スモ汝ニ由ル家ヲ化シテ
國トスルモ亦汝ニ由ル建成世民ヲ遣リテ河朔
ヲ拔キ兵ヲ引テ霍邑ニ至ル代王侑將ヲ遣リテ
之ヲ拒ク積雨ニ會フテ淵カ糧乏シ北還セント

ス世民號哭シテ諫ム遂ニ戰テ代ノ將宋老生ヲ
斬ル李密徐世勣ヲ遣リテ黎陽ノ粟ヲ取ル李淵
兵ヲ留メテ河東ヲ圍ミ自兵ヲ引テ西ス世民渭
北ヲ徇ス軍民群盜皆之ニ歸ス濕城ノ房玄齡軍
門ニ謁ス世民一見レテ舊識ノ如シ淵長安城ヲ
圍ム蕭銑兵ヲ巴陵ニ起シ梁王ト自稱ス後帝ト稱ス唐
之ヲ降ス李淵長安ニ克ク馬邑郡丞李靖淵ト
隙アリ將ニ斬ラレントス世民爲ニ請テ之ヲ捨
ス召シテ幕府ニ置ク李淵代王侑ヲ立テ皇帝
トシ帝ヲ太上皇トシ自大丞相唐王トナル

唐紀 姓ノ李氏周ノ唐國公虎ノ後陝西長安ニ都ス

高祖神堯皇帝 諱ハ淵字隋恭帝侑義寧二年恭帝元年唐高祖

武德元年是歲隋煬帝恭帝並ニ亡ス 隋ノ宇文化及其君廣ヲ江都

ニ弑ス煬帝江都ニ在リ荒浮益甚以中原亂ル

ヲ見テ北歸ニ心ナシ從駕ス人歸ルヲ思テ謀叛

ス許公宇文化及許帝ト自稱ス後竇建德ニ誅セラ

ル唐王淵帝ト稱ス 尋テ侑廢ス 建成ヲ太子トシ世民

ヲ秦王トシ元吉ヲ齊王トス隋ノ越王侗帝ト稱

ス魏公李密隋ト戰テ大敗シ唐ニ降ル其將徐世

勳亦降ル姓李ノ賜ス密ノ降ルヤ自台司ヲ期ス

唐主光祿郡邢國公トス密大ニ失望シテ遂ニ叛

ス行軍總管臧彥師討シテ之ヲ斬ル 隋恭帝皇

武德三年是歲隋亡 王世充鄭帝ト稱ス遂ニ隋主侗ヲ幽

弑ス 三 唐ノ秦王世民定揚ノ將宋金剛ヲ擊破

ス定揚可汗武周及金剛走死ス 四 夏王建德鄭

ヲ救ス唐ノ秦王世民大ニ破リテ之ヲ擒ス王世

充降ル建德ヲ斬ル 後又世充 竇建德ノ故將劉黑

闥兵ヲ漳南ニ起ス唐秦王世民ヲ天策上將ト

ス位王公ノ上ニアリ府ヲ開キ屬ヲ置久杜如晦

房玄齡等十八學士更日直宿、五年太子建成劉
黑闥ヲ擊シ、黑闥南遁ス、明年其將執ヘテ唐ニ降
ル之ヲ斬ル、七年是歲諸國皆滅ス惟梁州縣鄉
師都貞觀二年ニ亡ス學ヲ置ク、九年夏太白天ヲ度タル、唐ノ興ル
皆秦王世民ノ謀ナリ、帝以テ嗣トセント欲ス、世
民固辭ス、太子建成酒色遊畋ヲ喜ム、齊王元吉過
失多シ而シテ世民功名日ニ盛ナリ、建成元吉世
民ヲ殺サント謀ル、秦府ノ僚屬王ニ勸テ周公ノ
事ヲ行ハシム、力請シテ乃決ス、兵ヲ帥井テ玄武
門ニ伏ス、建成元吉入ル、世民建成ヲ射殺シ、尉遲

敬德元吉ヲ射殺ス、遂ニ世民ヲ立テ、太子トス、
故ノ東宮ノ官屬魏徵王珪ヲ諫議大夫トス、帝太
上皇ト稱シ、太子即位ス、妃長孫氏ヲ皇后トス、后
讀書ヲ好ミ、禮法ニ循ス、帝嘗テ與ニ賞罰ヲ議ス、
后辭シテ曰ク、牝鷄ノ晨スル、惟家ノ索ルナリ、妾
安ソ敢テ政ニ與ラン、突厥ノ頡利突利ニ可汗入
寇シ、渭水便橋ノ北ニ至ル、帝房玄齡等六騎ト徑
ニ渭水ニ詣リ、頡利ノ約ニ負クヲ責ム、突厥大ニ
驚キ、皆馬ヨリ下リテ羅拜ス、諸軍繼テ至ル、頡利
懼テ盟ニ請テ退ク、太宗文武皇帝諱ハ世民貞
高祖ノ次子

觀元年天下ヲ分テ十道トス關内、河南、河東、河北、山南、隴右、淮南、江南、
劔南、三年、房玄齡杜如晦ヲ僕射トス、魏徵ヲ秘書監トシ、朝政ニ參預ス、玄齡善謀リ、如晦善斷ス、二人同心シテ國ニ狗フ故ニ唐ノ世賢相ヲ稱ス、ル房杜ヲ推ス、徵嘗テ帝ニ告テ曰ク、願クハ臣ヲ良臣タラシメ、忠臣タラシムルコト勿レ、帝曰ク、忠良異ナルカ、徵曰ク、稷契皋陶ハ君臣協同シテ俱ニ尊榮ヲ享ク所謂良臣ナリ、龍逢比干ハ面折廷争シテ身誅セラレ、國亡ス、謂ハユル忠臣ナリ、上悅、ト突厥、頡利可汗攻亂ル、李靖ヲ定襄道行軍

帝

總管トシ、諸軍ヲ統テ之ヲ討ス、四年、行軍副總管張寶相、頡利可汗ヲ擒ニシテ以テ獻ス、七年、死囚三百九十人ヲ赦ス、市親繫囚ヲ録ス、死スヘキ者ヲ見テ之ヲ憫ミ、縱チテ家ニ歸ラシム、來秋、來リテ死ニ就ク、期ス皆期スルカ如ク、諸帝皆之ヲ赦ス、帝太上皇ヲ奉シテ未央宮ニ置酒ス、頡利可汗起舞、舞ヒ南蠻ノ馮智戴詩ヲ詠ス、上皇笑テ曰ク、胡越一家、古ヨリ未有ラス、九年、太上皇崩ス、十年、皇后長孫氏崩ス、府兵ヲ定ム、凡十道ニ府ヲ置ク、六百三十四、關内ハ二百六十一、皆諸

衛及東宮ノ六率ニ隸ス、季冬折衝都尉帥并テ戰
ヲ教ヘ、宿衛ニ當ル者番上ス、十四年、國子監ニ
臨ミ釋奠ス、時ニ天下ノ名儒ヲ徵シテ學官トス、孔
穎達ニ命シ諸儒ト五經疏ヲ定ム、之ヲ正義ト謂
ス、十五年、李世勣ヲ兵部尚書トス、世勣并州ニ
在ルコト、十六年、民夷懷服、帝曰、久隋ノ煬帝百
姓ヲ勞シ、長城ヲ築クモ益ナシ、朕惟世勣ヲ晉陽
ニ置テ、邊塵驚カス、其長城タルコト豈壯ナラス
ヤ、十七年、鄭公魏徵卒ス、帝曰、久銅ヲ鏡ニセハ
衣冠ヲ正スヘシ、古ヲ鏡トセハ、典替ヲ見ルヘシ

人ヲ鏡トセハ、得失ヲ知ルヘシ、徵没シテ朕一鏡
ヲ亡ス、帝自碑文ヲ製シ、石ニ書ス、功臣ヲ凌烟閣
ニ圖ス、太子承乾謀反ス、太子不才ナリ、魏王泰多
能ニシテ寵アリ、潛ニ嫡ヲ奪フノ志アリ、侯君集
功ヲ負テ怨望シ、釁ニ乘セント欲ス、因テ之ニ反
ヲ勸ム事、覺ハル、廢シテ庶人トス、君集誅セラハ、
泰降サレテ郡王トナル、晉王治ヲ立テ太子トス、
魏徵嘗テ君集ヲ薦ムルヲ以テ、帝其阿黨スルヲ
疑フ、又徵カ自前後ノ諫艸ヲ錄シテ褚遂良ニ示
ス、ノ聞キ愈悦ハス、乃前ノ碑ヲ踏ス、十八年、帝

高麗ヲ親征ス、高麗百濟ト兵ヲ連テ新羅入貢ノ道ヲ絶ツヲ告ルヲ以テナリ、十九年帝洛陽ヲ發シ、定州ニ至ル、安市城ヲ攻ム、六旬下ラス、遼左早寒功ヲ成サス、歎恨シテ曰ク、魏徵若在ラハ朕ニ此行アラシメスト、驛ヲ馳テ徵ヲ祠リ、復其碑ヲ立ツ、遂ニ還ル、二十二年司徒梁公房玄齡卒ス、二十三年帝崩ス、帝武功ヲ以テ禍亂ヲ定ムト雖、終ニ文德ヲ以テ海内ヲ綏ス、長孫無忌褚遂良遺詔ヲ受テ太子ヲ輔久、遼東ノ兵ヲ罷ム、太子即位ス、李世勣ヲ左僕射トス、高宗皇帝諱ハ治太宗ノ

第九 永徽五年太宗ノ才人武氏ヲ昭儀トス、故荊州都督武士護ノ女ナリ、帝嘗テ入リテ太宗ニ侍ス、武氏ヲ見テ悦ス、故ニ王后之ヲ納ル、大ニ幸ヒラル、六年褚遂良ヲ貶シテ潭州都督トス、帝武昭儀ヲ立テ、后トセントス、遂良遺命ヲ執リテ固ク争フ、昭儀簾中ヨリ大言シテ曰ク、何ソ此獠ヲ撲殺セサル、西南夷ヲ獠ト曰フ、遂良ハ執人帝更ニ季勣ニ問フ、勣對テ曰ク、此陛下ノ家事、何ソ必シモ外人ニ問ハント、事遂ニ決ス、皇后王氏ヲ廢シ、武氏ヲ立ツ、李義府ヲ參知政事トス、義府容貌溫恭、人ト埒怡

ス而シテ狡險忌刻ナリ人笑中刀アリト謂ス
顯慶四年太尉趙公長孫無忌ノ官封ヲ削リ黔州
ニ安置ス武后其己ヲ助ケサルヲ怒テナリ尋テ
逼テ自縊セシム武后專恣ニシテ政房帷ニ歸ス
天子ハ拱手スルノミ上元元年帝ヲ天皇トシ
后ヲ天后トス二年太子弘毒ニ中テ卒ス雍王
賢ヲ太子トス后初太子忠ヲ廢シ弘ヲ立以后ノ
子ナリ奏請シテ屢旨ニ近フ故ニ之ヲ鵠ス後又
賢ヲ廢シ太子哲ヲ立ツ弘道元年帝崩ス太子
哲即位ス褚遂良等死後群臣敢テ諫ル者ナシ李

善感奉天宮ヲ作ルヲ諫ム人以テ鳳朝陽ニ鳴ク
トナス中宗諱ノ懿高宗ノ第七子武后廢嗣聖
元年睿宗文明元年太后帝ヲ廢シテ豫王且ヲ立
シ太后帝ヲ房州ニ遷ス又均州ニ遷ス武氏ノ七
廟ヲ立シ英公李敬業兵ヲ揚州ニ起シ廬陵王ヲ
匡復スルヲ辭トス太后李孝逸ヲ遣リテ之ヲ擊
破ス其將敬業駱賓王ヲ斬テ降ル瑯琊王沖越王
貞又兵ヲ舉テ匡復ス克タスシテ皆死ス太后遂
ニ大ニ唐ノ宗室ヲ殺ス七年周武氏天
授元年太后國
號ヲ周ト改メ始テ周正ヲ用并ハ十一月ヲ正月

トシ十二月ヲ臘月トシ來歲正月ヲ一月トシ豫
 王且ノ嗣トシ姓ヲ武氏ト改ム時ニ璽武氏名年六
 十七初僧懷義ヲ寵シ後張易之昌宗ヲ寵ス兄弟
 事ヲ内ニ用非ル易之ヲ五郎ト曰ヒ昌宗ヲ六郎
 ト曰ス璽人心ノ服セスシテ多ク己ヲ議スルヲ
 畏ル盛ニ告密ノ門ヲ開ク酷吏侯思止索元禮周
 興來俊臣ノ徒無辜ヲ網羅ス八年周狄仁傑ヲ
 同平章事トス九年周如意元年再長壽ト改ム周狄仁傑魏
 元忠等ヲ貶シテ縣令トス周ノ左相武承嗣罷メ
 ラル李昭德ヲ同平章事トス昭德太后テ謂ス姑

姪ノ親ハ父子ニ何如シ子スラ猶其父ノ篡弒ヲ
 况メ姪ヲヤ太后瞿然クリ遂ニ承嗣ノ政事ヲ罷
 ム十四年周神功元年狄仁傑ヲ同平章事トナシ
 十五年周聖歷元年帝東都ニ還ル周立テ皇太子ト
 ス右武三思ヲ太子トセントス狄仁傑諫ム后怒
 ル冬シテ又召サル后曰久朕數雙陸シテ勝タサ
 ルヲ夢ミルハ何ソヤ仁傑王方慶ト同辭シテ對
 テ曰久雙陸勝タサルハ子ナキナリ天其陛下ヲ
 儆ムルカ且姪ト子母ト孰レカ親シキ陛下廬
 陵王ヲ立テハ千秋萬歲ノ後常ニ宗廟ニ享セン

三思立タハ、廟ニ姑ヲ祔セス、后感悟ス、周姚元崇
魏元忠ヲ同平章事トス、十七年周久視元年司空梁
公狄仁傑卒ス、太后仁傑ヲ信重ス、之ヲ國老ト謂
テ名イハス、薨スルニ及テ太后泣テ曰ク、朝堂空
シ、神龍元年復正月張柬之等兵ヲ舉テ武氏
ノ亂ヲ討ス、張易之昌宗伏誅ス、帝復位ス、太后ヲ
上陽宮ニ遷シ、尊號ヲ上テ則天大聖皇帝ト曰フ、
是冬崩ス、年八十二、國號ヲ復ス、復韋氏ヲ后トス、
帝朝ニ臨ム、后帷帳ヲ施シ、殿上ニ坐シテ政ヲ預
聞ス、上ノ女安樂公主武三思ノ子ニ適ス、三思因

テ宮禁ニ入ラザルヲ得テ、韋后ニ通ス、武氏ノ勢復振
ス、張柬之等五人皆王爵ヲ賜テ、政ヲ罷ム、已ニシ
テ皆殺サレ、神龍元年太子重俊兵ヲ起シ、武三
思武宗訓ヲ討殺ス、既ニシテ兵潰エテ死ス、安樂
公主上官婕妤等勢ニ依テ事ヲ用井、賂ヲ受ク
四年睿宗景雲元年皇后韋氏帝ヲ弑シ、溫王重茂ヲ立ツ
是ヨリ先ニ許州ノ參軍燕欽融皇后ノ淫亂ナル
ヲ抗言ス、宗楚客制ヲ矯テ之ヲ撲殺ス、上意快々
タリ、后及其黨始テ懼レ、安樂公主ト謀テ毒ヲ進
ム、帝崩ス、臨淄王隆基兵ヲ起シテ韋氏ヲ計ス、安

樂公主及其黨并ニ伏誅ス、相王且即位ス、重茂ヲ
廢シ、隆基ヲ立テ、皇太子トス、姚元之宋璟ヲ同
三品トス、環元之心ヲ協ヘ弊政ヲ革メ、紀綱脩寧
シテ、貞觀永徽ノ風アリトス、睿宗皇帝 諱ハ且高宗ノ
子第八景雲二年、郭元振張說ヲ同平章事トス、太子
ニ監國ヲ命ス、太極元年 玄宗先 元年 帝位ヲ太子ニ
傳ス、太子即位ス、帝ヲ尊テ太上皇トス、玄宗 明
皇帝 諱ハ隆基、睿宗ノ第三子 開元元年、太平公主逆ヲ謀ル、因
テ死ニ賜フ、其黨肅至忠、岑義、竇懷貞、崔湜等俱誅
ス、官者高力士ヲ右監門將軍トシ、姚崇 崇ハ即元

元崇、今元 ヲ省ク 崇微令トス、二年左右教坊ヲ置ム
之ヲ皇帝梨園ノ弟子ト謂ス、三年盧懷真ヲ黃
門監トシ、懷真清謹儉素ニレテ妻子飢寒ヲ免
ス、姚崇嘗テ謁告スルコト十餘日、政事委積、崇
出以須臾ニ裁決シ盡ス、顧テ齊濟ニ謂テ曰ク、我
相タルコト何如、濟曰ク、時ヲ救フノ相ト謂
ヘシ、時ニ懷慎ス伴食宰相ト謂ス、四年、太上皇
崩ス、姚崇罷メラル、宋璟ヲ黃門監トス、璟相トナ
リ、務ヲ人ヲ擇ヒ、材ニ隨テ任ヲ授ク、刑賞私ナレ、
姚宋相繼テ相トナル、心ヲ協ヘテ輔佐ス、唐世ノ

賢相前ニ房杜ヲ稱シ後ニ姚宋ヲ稱ス九年宇文融ヲ勸農使トス融天下ノ戸口ヲ檢括セント勸農判官十人ヲ置テ天下ヲ分行シ競テ刻急ニス州縣勞擾シ百姓怨苦ス十年始テ壯士ヲ募テ宿衛ニ充ツ兵農ノ分ル此ヨリ始ル二十一年韓休ヲ同平章事トス休峭直ナリ帝或ハ宴遊小過アレハ輒韓休知ルヤ否ヤト問フ言終テ諫疏已ニ至ハ左右曰ク休相ト爲テ陛下殊ニ瘦セタリ帝曰ク朕瘦タリトモ天下肥エン二十二年張九齡ヲ中書令トシ李林甫ヲ同三品トス林

甫柔佞ニシテ狡數多シ深ク宦官妃嬪ニ結テ上ノ動靜ヲ伺フ是ニ由テ奏對スル毎ニ旨ニ稱ス二十四年幽州節度使張守珪討擊使安祿山ヲ六奚契丹ヲ擊タシム敗績ス守珪祿山ヲ執ヘテ京師ニ送ル帝其才勇ヲ惜テ赦サントハ張九齡曰ク律ヲ失ヒ師ヲ喪フ誅ヤスハアルヘカラズ且反相アリ殺サスハ後患アラント帝聽カス竟ニ之ヲ赦ス祿山ハ本營州ノ雜胡ナリ帝在位久シ漸奢欲ヲ肆ニス九齡事ニ遇ハハ力爭ス是ニ至テ罷ラル林甫政ヲ專ニス林甫甘言ヲ人ニ

伯ハセ、陰ニ之ヲ中傷ス、世謂フ林甫口ニ蜜アリ
腹ニ劍アリ、二十六年、忠王璵ヲ立テ太子トス、
宅ヲ亨
ト改ム、二十八年、荊州長史張九齡卒ス、帝九齡
ヲ遂フト雖猶之ヲ愛重ス、宰相人ヲ薦ル毎ニ輒
問テ曰ク、風度九齡ノ如キヲ得ルヤ、天寶元年、
安祿山ヲ平盧節度使トス、四載前年ヲ改ム楊太
眞ヲ貴妃トス、壽王ノ妃ナリ、帝其絶美ヲ悦ビ、其
意ヲ以テ乞テ女官タラシム、遊ニ寵ヲ專ニス、貴
妃ノ從兄釗ニ名ヲ國忠ト賜フ、六載、安祿山ヲ
御史大夫トス、祿山體充肥、腹垂レテ膝ヲ過ク、帝

戲ニ其腹ヲ指テ曰ク、此ノ胡腹中何ノ有ル所ハ
對テ日久止、赤心アルノミ、十載、安祿山ノ爲ニ
茅ヲ起ス、祿山ノ生日ニ、帝ト貴妃トノ賜予甚厚
シ、祿山宮掖ニ出入レテ通宵出テス、願醜聲ノ外
ニ聞ユルアレトモ、帝疑ハス、祿山ニ河東節度使
ヲ兼ネシム、十一載、李林甫卒ス、林甫左右ニ媚
事シ、帝意ヲ迎合シ、言路ヲ杜絶ス、相位ニ在ルコ
ト十九年、天下ノ亂ヲ養成ス、然レトモ帝悟ラス、
十四載、安祿山反ス、祿山逆久レト雖、帝ノ恩遇
厚キヲ以テ隱忍セリ、楊國忠嘗テ帝ニ祿山カ必

反セシコトヲ言テ聽カレズ、故ニ之ヲ激シ、其反
ノ速ニシテ、信ヲ帝ニ取ラント欲ス、其反スルマ
國忠楊々トシテ得色アリ、郭子儀ヲ朔方節度使
トシ平原太守顏真卿兵ヲ起シテ賊ヲ討ス、帝初
河北賊ニ從フト聞テ、歎シテ曰ク、二十四郡皆テ
一人ノ義士ナキカ、真卿ノ奏至ルニ及テ、大ニ喜
テ曰ク、真卿何ノ狀ニシテ能、此ノ如キ常山太守
顏果卿兵ヲ起シ賊ヲ討ス河北ノ諸郡皆之ニ應
ス、十五載、肅宗至德元載、安祿山僭號シテ大燕皇帝ト
稱ス、賊將史思明常山ヲ陷ハ、顏果卿之ニ死ス、思

明兵ヲ引テ城下ニ至バ、果卿晝夜拒戰ス、城陷ハ
果卿ヲ執ヘテ祿山ニ送ル、果卿罵リテ曰ク、豚狗
何ソ速ニ我ヲ殺サ、ハ祿山大ニ怒テ縛シテ之
ヲ嵩ニ亭光弼ヲ河東節度使トシ、真源令張巡吏
民ヲ帥井テ兵ヲ雍丘ニ起シ、賊ヲ討ス、郭子儀李
光弼賊將史思明ト戰テ大ニ之ヲ敗ル、河北十餘
郡ノ衆ハ哥舒翰賊ト靈寶ニ戰テ大敗ス、執ハレ
テ嵩ニ降ル、賊遂ニ關ニ入ル、帝蜀ニ出奔ス、馬嵬
ニ次バ將士飢疲シテ皆憤怒ス、禍ノ楊國忠ニ由
ルヲ以テ國忠ヲ殺シ、帝ニ逼リテ貴妃ヲ縊殺ス、

明日馬嵬ヲ發ス父老道ヲ遽リテ帝ヲ留ム乃太
子ニ命レテ宜撫セシム父老太子ノ馬ヲ擁ヒテ
行クコトヲ得ス帝曰久天ナリト太子ヲ留メテ
賊ヲ討セシム又位ヲ傳ヘント欲入太子受ケス
賊長安ヲ陷ビ日夜縱酒シテ聲色寶賄ニ專意ス
故ニ帝安行シテ蜀ニ入ルコトヲ得タリ太子亨
靈武ニ即位ス帝ヲ尊テ上皇天帝トス李泌太子
ト布衣ノ交ヲ爲ス使ヲ遣リテ之ヲ召ヒ事大小
トナク與ニ謀ハ顏真卿蠟丸ヲ以テ表ヲ靈武ニ
達ス太子モ亦蠟丸ヲ以テ詔ヲ江淮ニ頒ツ是ニ

由テ諸道始テ狗國ノ心益堅シ 肅宗皇帝 諱ハ

宗ノ弟 至德二載安慶緒祿山ヲ殺ス祿山兵ヲ起
スヨリ以來目昏シ是ニ至テ復物ヲ見ス嬖妾ノ
子ヲ愛シ慶緒ニ代ヘントス慶緒入ヲシテ之ヲ弑
セシメ自偽號ヲ襲ク帝鳳翔ニ至ル賊將尹子奇
睢陽ヲ陷ル張巡許遠之ニ死ス子奇屢來リ攻ム
城中食盡久巡愛妾ヲ殺シテ士ニ食マヌニ至リ
南霽雲圍ヲ犯シ出テ急ヲ臨淮ノ賀蘭進明ニ
告ク賀蘭應セズ城陷ル巡西向再拜シテ曰久臣
生テ陛下ニ報スルコト能ハス死シテ腐鬼トナ

リテ賊ヲ殺サント南齊雲雷萬春等三十六人ト
害ニ遇フ遠モ亦屈セスレテ死ス廣平王假郭子
儀西京ヲ收復ス回紇ノ兵モ亦至ル倣衆ヲ將井
テ鳳翔ヲ發シ長安ニ至テ賊ヲ擊ツ賊大潰ス大
軍西京ニ入ル遂ニ軍ヲ引テ東シ郭子儀等ト東
京ヲ收復ス安慶緒走テ鄴ヲ保ス李泌衡山ニ歸
ル帝西京ニ至ル上皇西京ニ還ル乾元元年淑
妃張氏ヲ立テ、皇后トス先ニ張良娣トス成王假ヲ
立テ、皇太子トス名ヲ豫トス郭子儀等ノ九節度ニ
命シテ安慶緒ヲ討ス宦官魚朝恩ヲ觀軍容使ト

ス二年史思明兵ヲ引テ慶緒ヲ救ス九節度ノ
兵鄴ニ潰ス史明慶緒ヲ殺シ范陽ニ還テ僭號ス
大燕皇帝ト稱ス郭子儀ヲ召シ還ス魚朝恩之ヲ惡ムカ
故ナリ李光弼ヲ朔方節度使兵馬元帥トス光弼
軍ヲ治ルコト嚴整ナリ史思明ト河陽ニ戰テ大
ニ之ヲ敗ル上元元年李輔國帝ノ不豫ナルニ
乘シテ張后ト謀テ上皇ヲ西内ニ遷ス上皇懌ハ
疾ヲ成ス二年史朝義史思明ヲ殺ス思明
少子ヲ愛シ朝義ヲ惡ム朝義思明ヲ殺シテ自立
ス寶應元年郭子儀ニ爵汾陽王ヲ賜ヒ知諸道

行營トス、時ニ河東亂ル、故ニ子儀ニ命シテ之ヲ
鎮ス。上皇崩ス、帝疾ニ寢ス之ヲ聞テ轉劇シ、帝崩
ス。李輔國皇后張氏ヲ弒ス、初張后輔國ト相表裏
シテ權ヲ專ニス、晚ニ更ニ隙アリ、帝疾篤シ、后輔
國ヲ誅セントス、太子ヲ召テ之ヲ謂フ、太子曰、
陛下疾甚危シ、恐ラクハ震驚セシ、輔國其謀ヲ聞
ク、帝崩シテ后ヲ殺ス、太子即位ス、輔國益横ナリ、
雍王适ヲ天下兵馬元帥トシ、史朝義ヲ討ス、适諸
道及、回紇ノ兵ヲ率テ進ミテ洛陽ニ至ル、副元帥
僕固懷恩賊柵ノ東北ニ出テ、表裏合擊シテ大ニ

之ヲ敗ル、盜李輔國ヲ殺ス、帝ノ使ムル所ナリ

代宗皇帝

諱ハ豫原名徹
肅宗ノ太子

廣德元年李懷仙史朝義

ヲ殺シテ首ヲ京師ニ傳ス、賊將薛嵩田承嗣李懷

仙等ヲ河北諸鎮ノ節度使トス、僕固懷恩賊平キ

寵衰ルヲ恐レ、嵩等ヲ河北ニ留メテ黨援トス、河

北朝命ヲ抗スル此ヨリ始ル、吐蕃長安ニ入寇ス、

帝陝州ニ奔ル、郭子儀吐蕃ヲ擊ツ、吐蕃遁ル去ル、

宦者程元振專恣ナリ、吐蕃ノ入ル、掩蔽シテ奏セ

ス、是ニ至テ濠州ニ流ス、二年僕固懷恩反シテ

太原ニ寇ス、郭子儀ヲ河中節度使トス、懷恩ノ將

士分陽王至ルト聞テ皆之ニ歸ス臨淮王李光弼卒ス光弼郭子儀ト名ヲ齊クス徐州ニ在リ兵ヲ擁シテ進マス諸將復稟畏ヤス光弼愧恨シ疾ヲ成シテ卒ス僕固懷恩回紇吐蕃雜胡ヲ誘テ入寇ス郭子儀ヲ召シ涇陽ニ屯セシム懷恩道ニ死ス二虜長ヲ爭テ睦カラス子儀人ヲシテ回紇ニ說テ與ニ吐蕃ヲ擊タシム回紇信セスシテ曰ク郭公在サハ見ルコトヲ得ヘキヤ子儀乃虜營ニ至ル傳呼シテ曰ク令公來ル虜大ニ驚テ皆羅拜ス因テ其罪ヲ讓メ相誓約シテ去ル吐蕃聞テ遁バ

五年魚朝恩專恣不軌ナリ元載奏シテ之ヲ誅ス十四年帝崩ス太子適即位ス楊炎ヲ同平章事トス上方ニ精ヲ勵シ治ヲ求ム不次ニ人ヲ用弗炎道州司馬ヨリ舉ゲラル德宗皇帝建中元年忠州刺史劉晏ヲ殺ス晏善財計ヲ治ム嘗テ謂ス戸口滋息スレハ賦稅自廣シト鹽利穀運以テ國用ヲ充足ス然レトモ久シク利權ヲ與リ衆頗疾ム遂ニ讒ヲ以テ殺サル二年成德節度使李寶臣卒ス子惟岳留後ト自稱ス寶臣李正己田承嗣梁崇義等ト相結ヒ土地ヲ子孫ニ傳ヘシ

ト期シ、互ニ相請ス帝許サス、遂ニ共ニ謀リテ命
ヲ拒ム、盧杞ヲ同平章事トス、杞藍面鬼色口辯ア
リ、往テ郭子儀ヲ候ス、子儀悉ク姬妾ヲ屏ケテ曰
ク、杞ハ貌陋シク心險ナリ、婦人之ヲ見ハ必笑ハシ、
他日杞志ヲ得ハ、吾族類ナクシ、尚父太尉中書令
汾陽王郭子儀卒ス、子儀身天下ノ安危ニ係スル
コト三十年、年八十五ニシテ終ル、三年、李希烈
天下都元帥ト自稱ス、時ニ朱滔田悅、王武俊等皆
反ス、希烈共ニ交通ス、四年、李希烈汝州ヲ陷ル、
顏真卿命ヲ受テ之ヲ宣慰ス、希烈屢、真卿ヲ脇服

セントス、真卿屈セス、遂ニ殺サシ、希烈襄城ニ寇
ス、涇原節度使姚令言入リテ援ク、厚賜ヲ冀フト
得ス、衆怒テ亂ヲ作シ、城ニ入ル、帝奉天ニ出奔ス
亂兵太尉未杞ヲ奉ヒ、反シテ長安ニ據ル、杞遂ニ
僭號シ、來テ奉天ヲ圍ム、李晟兵ヲ將テ入リテ援
ク、渾瑊、泚ヲ擊テ之ヲ破走ス、李懷光難ニ赴ク、亦
泚ヲ破リ、入リテ盧杞カ姦ヲ白サントス、杞隔テ
見ルコトヲ得ス、懷光上表シテ杞ヲ罪ス、衆論
誼騰ス、遂ニ杞ヲ遠州司馬ニ貶ス、興元元年大
赦ス、陸贄上ニ勸メテ已テ罪シ、天下ニ謝ス、四方

大ニ悦フ王武俊田悅李納等皆王號ヲ去テ謝罪
ス、李希烈僭號ス、李懷光反ス、帝梁州ニ奔ル、魏博
ノ田緒其節度使田悅ヲ殺シ、軍府ヲ權知ス、李晟
ニ諸道副元帥ヲ加ス、晟ノ家長安ニ在リ、軍中言
ノ家ニ及フアレハ、晟泣テ曰ク、天子何クニ在ル
敢テ家ヲ言ンヤ、遂ニ京城ヲ收復ス、朱泚亡走ス、
其將韓旻斬テ降ル、車駕長安ニ還ル、貞元元年
馬燧河中ヲ平ク、李懷光縊死ス、二年淮西ノ將
陳僊奇李希烈ヲ殺レテ降ル、兵少誠僊奇ヲ殺ス、
少誠ヲ留後トス、吐蕃入寇ス、李晟之ヲ泚城ニ擊

破ス、三年張延賞ヲ同平章事トス、吐蕃馬燧ニ
因テ和ヲ求ム、李晟曰ク、我狄信ナシ之ヲ擊ツニ
如カス、延賞和ヲ便トシ、渾瑊ヲレテ之ト平涼ニ
盟ム、レハ吐蕃盟ヲ却ス、瑊走テ免ル、吐蕃晟燧瑊
ヲ畏レテ曰ク、此三人ヲ去ラハ、唐ハ圖ルヘシト、是
ニ於テ離間ノ謀ヲ行ヒ、瑊ヲ執ヘテ燧ヲ賣リ、因
テ直ニ長安ヲ犯サントス、會瑊ヲ失テ止ム、李泌
ヲ同平章事トス、帝泌ニ謂テ曰ク、人盧杞ヲ姦ト
言、朕珠ニ覺エス、泌曰ク、此乃杞ノ姦邪タル所
以ナリ、倘覺エハ豈建中ノ亂アラナヤ、八年趙

憬陸贄ヲ同平章事トス、十一年、陸贄ヲ忠州別駕ニ貶ス、裴延齡之ヲ譖スルナリ、諫議大夫陽城上疏シテ延齡カ姦邪ニシテ陸贄カ無罪ヲ論ス、帝大ニ怒ル、太子爲ニ營救シテ解久、二十一年、是歲八月永貞ト改元ス、帝崩ス、太子誦即位ス、初善書ノ王伾善棋ノ王叔文、太子ニ娛侍ス、密ニ翰林學士韋執誼及朝士ノ有名ニシテ速進ヲ求ムル者ニ結テ定テ死友トス、踪跡詭秘、其端ヲ知ル者ナシ、順宗皇帝諱ハ誦、德宗ノ長子、先ニ風疾有テ音ヲ失ス、二王等事ヲ用井ル、帝位ヲ太子ニ傳ス、二王敗セノハ、臣

病テ死ス、叔文ハ死ヲ賜ス、其黨皆遠貶ス、憲宗諱ハ純、初名ハ淳、順宗ノ太子、元和元年、西川ノ節度使劉闢反ス、杜黃裳同平章事、高崇文神策行營節度使ヲ薦メ、兵ヲ將井テ之ヲ討ス、二年、武元衡、李吉甫ヲ同平章事トス、吉甫中書舍人裴垪ニ人オヲ問ヒ、三十餘人ヲ得タリ、數月ノ間、選用略盡久、當時翕然トシテ人ヲ得ルト稱ス、垪尋テ相タリ、六年、李絳ヲ同平章事トス、李吉甫言ス、陛下太平ヲ樂シメ、絳曰ク、今烽火屢驚キ、水旱時ニ作リ、倉廩空虚ナリ、豈遽ニ樂マンヤ、帝左右ニ謂ス、吉甫媚悦ス、絳カ如キハ

眞ノ宰相ナリ 七年、魏博ノ兵馬使田興吏ヲ請
テ奉貢ス、詔レテ節度使トス、知制誥裴度ヲ遣リ
テ宣慰シ、軍士ニ頒賞ス、一軍ノ歡聲雷ノ如シ、興
ニ名ヲ弘正ト賜ス 十年、彰義ノ節度使吳元濟
反ス、兵ヲ發シテ之ヲ討ス、裴度淮西ノ行營ヲ宣
慰ス、還テ其取ルヘキヲ言ス、帝武元衡ニ兵事ヲ
委ヌ、李師道ノ刺客元衡ヲ暗中ニ射殺シ、裴度ヲ
傷ク、帝怒テ賊ヲ討スルコト益急ノリ、度ヲ同平
章事兼彰義節度使トシ、淮西ノ宣慰招討使ニ充
ツ 十二年、唐鄧ノ節度使李愬蔡州ヲ襲テ吳元

濟ヲ擒ス、愬雪夜兵ヲ引テ蔡州城ニ入り、驚鳴池
ヲ擊テ軍聲ヲ混シ、入りテ元濟ヲ執ヘ、檻ニテ京
師ニ送ル、諸鎮繼テ降ル、李愬ニ爵涼國公ヲ賜ス、
裴度ニ爵晉國公ヲ賜ヒ、復入テ政事ヲ知ラシム、
十三年、皇甫鏐程昇ヲ同平章事トス、淮西既ニ
平ク、帝寢驕侈ナリ、異鹽鐵等ノ羨餘ヲ進メ、遂ニ
相タリ、朝野駭愕ス、元和ノ政非ナリ、十四年、鳳
翔法門寺ノ佛骨ヲ京師ニ迎ヘテ、禁中ニ留メ、諸
寺ニ壓送ス、侍郎韓愈上表レテ極諫ス、上大ニ怒
テ、潮州刺史ニ貶シ、魏博節度使田弘正李師道ヲ

討ス平盧都將劉悟師道父子ヲ捕斬シ首ヲ弘正ニ送ル裴度罷ラレテ河東節度使トナル皇甫鎛之ヲ擠ルナリ十五年帝暴崩ス時人皆言ス宦者陳弘之カ弒逆セルナリト其黨諱テ金丹ヲ服シテ崩スト言ス太子恒即位ス穆宗皇帝諱恒憲宗ノ第三子長慶元年盧龍軍亂レ節度使張弘靖ヲ囚メ成德ノ兵馬使王庭湊節度使田弘正ヲ殺ス諸道ニ詔シテ之ヲ討ス二年兵部侍郎韓愈ヲ遣リテ王庭湊ノ軍ヲ宣慰ス庭湊刃ヲ拔キ弓ニ弦シテ之ヲ迎フ愈聲ヲ勵マシテ叱シ説クニ

順逆ヲ以テス庭湊禮シテ之ヲ歸ス四年帝崩

ス太子湛即位ス敬宗皇帝諱ハ湛穆宗ノ長子寶歷二年

裴度ヲ司空同平章事トス李逢吉ノ黨百計度ヲ

毀ル帝益度ヲ厚待ス宦官劉克明等帝ヲ室内ニ

弒ス江王涵立シ文宗皇帝諱ハ昂本名ハ涵

和二年親舉人ヲ策ス元和ノ末ヨリ宦官益横ナ

リ賢良方正劉蕡對策シテ其禍ヲ極言ス考官宦

官ヲ畏レテ敢テ取ラズ李邵曰久蕡ハ下第シ我

輩ハ厚顔ニシテ登科スト上疏シテ官ヲ回サシ

トス報セズ六年牛僧孺相ノ罷メラル時ニ僧

孺李宗閔等李德裕ト各朋黨アリ帝之ヲ患ヒ毎ニ歎シテ曰ク河北ノ賊ヲ去ルハ易ク朝中ノ朋黨ヲ去ルハ難シ九年李訓鄭注等宦官ヲ誅セシコトヲ謀ル克タス注ハ本宦者王守澄カ引ク所訓ハ又注カ引ク所ナリ後訓頗ル注ヲ忌ミテ之ヲ鳳翔ニ出シ又遂ニ王守澄ヲ鳩殺ス初注訓ト謀ル守澄ノ葬ヲ送ル時ヲ待チテ盡内臣ヲ殺サント然レトモ其功專注ニ歸センコトヲ恐レ金吾廳事後ノ石榴ニ甘露アリト奏セシメ帝ニ親視シコトヲ勸ム帝宰相ニ先往キテ視セシム

訓訓時ニ同平章事タリ還テ其真ニ非ルヲ奏ス帝仇士良ニ諸宦官ヲ帥サテ往テ視セシム士良等至ル時ニ風暴ヲ吹き起ス兵ヲ執ル者甚衆キヲ見ル驚キ走テ變ヲ告ク訓遽ニ金吾衛士ヲ呼ヒ殿ニ上リ宦者ヲ縱殺ス死傷十餘人事ノ濟ラサルヲ知テ走ル訓注舒元興王涯賈餗等皆殺サル是ヨリ天下ノ事止司宦官ヲ北司ト目ス決ス開成四年司徒中書令晉公裴度卒ス度ハ四朝ノ將相威望遠ク四夷ニ達ス身國家ノ輕重ニ繫ル郭子儀カ如キコト二十餘年五年帝疾甚シ仇士良等太子威

美カ立ツコト、已ニ由ラサルヲ以テ之ヲ廢ス、帝崩ス、太弟瀝陳王成美ヲ殺シテ即位ス、武宗皇帝諱ハ瀝、名ヲ炎ト改メ、穆宗ノ第五子會昌元年昭義ノ節度使劉從諫卒ス、姪鎮貞留後トナル、李德裕曰、久澤潞ノ事體ハ、河北亂ニ習フ者ト同レカラス、若又因テ之ニ授ケハ、威令諸鎮ニ行ハレスト、遂ニ河北諭シテ與ニ各進討ス、潞人鎮ヲ斬テ降ル、内侍仇士良致仕ス、其黨ニ謂テ曰ク、天子ハ閑ナラシムヘカラス、奢靡ニ娛マレメ、他事ニ暇無カシム、尋テ士良ノ官爵ヲ削リ、其家ヲ藉沒ス、六

帝崩ス、光王忱入リテ即位ス、光王幼ニシテ不慧ト稱ス、是ニ於テ宦官策ヲ定メ立テ、皇太叔トス、太叔百官ヲ見テ庶務ヲ裁決スルニ理ニ當ラサルナシ、人始メテ其隱德アルヲ知ル、宜宗皇帝諱ハ忱、憲宗ノ第十三子大中四年、令孤絢ヲ同平章事トス、帝嘗テ絢ト謀リテ宦官ヲ誅セントス、絢曰ク、但有罪ハ捨スコト勿ク、闕クレハ補フコト勿レ、自然盡ルニ至ラン、帝太宗ノ金錄ヲ絢ニ讀マシム、又貞觀政要ヲ屏風ニ書シテ之ヲ讀ム、十一年、韋澳ヲ河陽節度使トス、帝澳ニ州縣ノ風俗ヲ

慕次セシム、題シテ處分語ト曰フ、刺史ノ入謝ス
ハ時帝州事ヲ救戒ス、人々驚服セサルナリ、帝明
察沈斷、諫ニ從フコト流ルカ如シ、民物ヲ惠愛ス、
故ニ人大中ノ政ヲ思詠ス、十三年、帝崩ス、鄆王
灌卽位ス、懿宗皇帝諱ハ灌、宣宗ノ長子、咸通九年、桂州ノ
戍卒亂ル、初徐泗ノ兵桂州ニ戍シ、南詔ノ入寇ヲ
禦ス、期ヲ過キテ代ルコトヲ得ス、遂ニ亂ヲ作シ、
判官龐勛ヲ推ンテ主トス、康承訓ヲ遣リテ之ヲ
討ス、承訓沙陀ノ朱邪赤心ヲ前鋒トシ、與ニ戰ス、
勛敗死ス、赤心ニ姓名ヲ李國昌ト賜ヒ、大同軍節

度使トス、尋テ又振武節度使トス、十四年、帝崩
ス、普王儼卽位ス、僖宗皇帝諱ハ儼、始名ハ儼、乾
符元年、濮人王仙芝亂ヲ作ス、懿宗以來賦歛愈急
ナリ、關東連年水旱シテ、群盜蜂起ス、仙芝衆ヲ聚
メテ長垣ニ起ル、冤句ノ黃巢騎射ヲ善シ、粗書傳ニ
涉ル、仙芝ニ應シテ州縣ヲ攻剽シ、衆ヲ聚メテ數
萬ニ至ル、五年、大同軍亂ル、謀リテ曰ク、今天下
大亂、李振武李國昌ノ子、勇三軍ニ冠タリ、輔ケテ
事ヲ舉ケハ、代北ハ平クルニ足ラス、乃李克用ヲ
推シテ留後トス、招討使曾元裕大ニ王仙芝ヲ破

リテ之ヲ誅ス、黃巢沂濮ヲ陷レ、宋汴ヲ掠ハ、李國昌ヲ大同ノ節度使トス、國昌詔ヲ奉セシテ克用ト合ス、靈龍及蔚朔ノ兵之ヲ討破ス、國昌克用達韌ニ亡走ス、六年、鎮海ノ節度使高駢大ニ黃巢ヲ破ル、巢南走ス、既ニシテ桂州ヨリ湘ニ沿テ潭州ヲ陷レ、襄陽ニ赴ク、廣明元年、黃巢江淮ヲ渡リ、東都ヲ陷ル、遂ニ西シテ長安ニ入ル、帝興元ニ走ル、中和元年、帝成都ニ幸ス、黃巢ノ將朱溫鄧州ヲ陷ル、尚讓鳳翔ニ寇ス、因テ李克用ヲ赦シ之ヲ召ス、鳳翔節度使鄭畋入リテ賊ヲ討ス、巢走

ル、官軍掠取ヲ事トシテ軍整ハス、巢還リ襲テ復長安ニ入ル、二年、官軍四集ス、黃巢勢日ニ蹙ル、朱溫降ル、河中行營招討使トシ、名ヲ全忠ト賜フ、李克用沙陀ノ兵ヲ帥ヰテ至ル、皆黑ヲ衣ル、賊之ヲ憚リテ曰ク、鷓鴣軍至ル、三年、李克用黃巢ヲ破リテ長安ヲ收復ス、克用少ニシテ驍勇ナリ、軍中號レテ李鷓鴣ト曰フ、一目微眇ナリ、人獨眼龍ト謂ス、是ニ於テ同平章事ヲ加ス、四年、黃巢汴州ニ趣ク、李克用追撃レテ大ニ之ヲ破ル、尚讓降ル、巢ヲ瑕丘ニ敗ル、賊黨巢ヲ斬テ降ル、克用汴ニ至ル

朱全忠之ヲ饗ス、其夜全忠克用ヲ圍ム、克用醉テ知ラス、會雷雨晦冥ナリ、因テ圍ヲ突テ免ル、克用晋陽ニ還リ、奉表シテ全忠ヲ討セントス、詔シテ和解ス、光啟元年車駕成都ヲ發シテ京師ニ至ル、田令孜朱玫ヲ遣リ河中ヲ攻ム、留後王重榮救ヲ李克用ニ求ム、克用朝廷ノ全忠ヲ罪セサルヲ怨ミ、上言シ、兵ヲ引テ玫等ヲ破リ、進ミテ京城ニ逼ル、帝鳳翔ニ奔ル、二年、田令孜帝ヲ劫シテ寶鷄ニ如ク、朱玫等追テ車駕ニ逼ル、帝復走テ大散關ニ入ル、李克用王重榮共ニ請テ玫ヲ討ス、玫ノ

將王行瑜戰敗シテ長安ニ還ル、玫怒ル、行瑜遂ニ玫ヲ斬ル、車駕鳳翔ニ至ル、文德元年、帝長安ニ至ル、尋テ崩ス、太弟敏即位ス、昭宗皇帝諱ハ敏、初名ヲ晔ト改ム、大順元年李克用ノ官爵ヲ削リ、張濬ヲ招討制置使トシ、諸道ノ兵ヲ會シテ之ヲ討ス、克用趙城ニ拒ク、官軍潰ニ、張濬韓建遁走ス、明年濬等ヲ敗シテ克用ノ官爵ヲ復ス、景福二年、王建成都ヲ取リ、自西川留後ト稱シ、陳敬瑄田令孜ヲ殺ス、鳳翔ノ李茂貞邠州ノ王行瑜擅ニ兵ヲ舉テ興元ヲ擊ツ、楊復恭興元ニ走リ、楊守亮等ト命ヲ拒ム、帝其驕横ヲ怒

リ策ヲ決シテ之ヲ討ス官軍逃潰ス茂貞遂ニ興
元ヲ取ル楊復恭伏誅ス二年董昌越州ニ僭號
ス鎮海節度使錢鏐之ヲ討ス明年昌伏誅ス王行
瑜李茂貞韓建兵ヲ舉テ闕ヲ犯ス李克用上表シ
テ三鎮韓王建王ヲ討ス克用行瑜ヲ邠州ニ斬ル請テ
岐茂貞華建ヲ取ラントス貴近其太盛ナルヲ恐レ
テ之ヲ止ム克用ヲ晋王ニ進封ス三年李茂貞
兵ヲ舉テ闕ヲ犯ス帝華州ニ走ル克用兵ヲ發シ
復ハリテ援ク四年韓建兵ヲ以テ要シテ諸王
ノ兵及殿後ノ四軍ヲ罷ム又制ヲ矯メテ諸王十

一人ヲ殺ス光化元年車駕長安ニ還ル三年
中尉劉季述帝ヲ少陽院ニ幽ス同平章事崔胤書
ヲ朱全忠ニ致シ兵ヲ興シテ反正ヲ圖ラシム
天復元年神策指揮使孫德昭等劉季述ヲ討誅ス
帝復位ス宦者韓全誨等日夜崔胤ヲ去ラシコトヲ
謀ハ胤朱全忠ヲ召ス全忠大梁ヲ發ス全誨等帝
ヲ劫シテ鳳翔ニ如ク二年朱全忠鳳翔ヲ圍ム
三年李茂貞全誨等ヲ殺ス請テ全忠ト和解シ
車駕ヲ奉シテ長安ニ還リ大ニ宦官ヲ誅ス幼弱
ナル者三十人ヲ留メテ洒掃ニ備ス全忠ヲ梁王

進ム、天祐元年、梁王全忠崔胤ヲ殺ス、全忠黨
奪ノ志アリ、都ヲ洛ニ遷サント欲ス、胤ヲ恐レテ
之ヲ殺シ、帝ニ請テ東行シ、士民ヲ驅徙ス、號哭路
ニ滿ノ車駕華州ニ至ル、民皆萬歲ト呼フ、帝泣テ
謂テ曰ク萬歲ト呼フコト勿レ、朕復汝カ主タラ
スト、洛陽ニ至ル、全忠帝ヲ弑ス、太子祝即位ス、
昭宣帝諱ハ祚名ヲ祝ト、天祐二年、朱全忠、德王裕
等十九人ヲ殺ス皆昭宗ノ子、又裴樞、獨孤損、崔遠、陸扆、
王溥等三十餘人ヲ白馬驛ニ聚メテ一夕ニ之ヲ
殺ス、李振等言テ曰ク此輩常ニ自清涼ト謂ヘリ

宜シク之ヲ黃河ニ投レテ濁流トスヘシト、遂ニ
尸ヲ河ニ投ス、全忠太后何氏ヲ弑ス、

後梁紀姓ハ朱氏、洛陽ニ都ス

太祖皇帝諱ハ溫名ヲ全忠ト賜、梁王全忠皇帝ト
稱シ、開平ト改元ス、唐帝ヲ濟陰王トシ、明年之ヲ
弑ス、梁馬殷ヲ楚王トシ、五主ニ傳フ用ノ錢鏐ヲ
吳越王トス、四主ニ傳フ宋ノ時ニ河東用李元
貞李茂淮南楊ハ天祐ト稱シ、西川王建ハ天復ト稱ス、
餘ハ皆梁ノ正朔ヲ稟ク、年ニ晉王克用卒ス、子存
勗嗣ク、晉王諸將ト謀リテ曰ク朱溫先王死スト

聞カハ必驕怠セシ、若、精兵其不意ニ出テハ必破
レント、遂ニ兵ヲ帥テ直ニ夾寨ニ抵リ、大ニ梁
ノ兵ヲ敗ル、梁主驚歎シテ曰ク、子ヲ生ベハ李亞
子ノ如クナルヘシ、吾兒カ如キハ豚犬ノミ、
年ニ梁主洛陽ニ至ル疾甚シ、近臣ニ向テ哽咽シテ
曰ク、太原ノ餘孽昌熾ノリ、天又我年ヲ奪ノ、諸兒
ハ彼カ敵ニ非ス吾葬地ナケント、郢王友珪其主
昆ヲ弒シテ自立ス、末帝諱ハ友貞名ノ興ト
乾化三年、梁ノ均王友貞兵ヲ起シテ賊ヲ討ス、友珪伏
誅ス、友貞大梁ニ立ツ、貞明二年、劉巖越帝ト稱ス、

國號ヲ漢、四年吳、楊渥徐溫、我セ、徐知誥ヲ淮
南行軍副使トシ、政ヲ輔ケシム、知誥吳王ニ事ヘ
テ賢才ヲ求メ、規諫ヲ納シ、宋齊邱ヲ引テ謀主ト
ス、五年、吳越王鏐ノ子傳瓘大ニ吳ノ兵ヲ破ル、吳
越吳ヲ攻ム、吳人ノヲ破ル、徐知誥敗卒ヲ躡リテ
蘇洲ヲ襲取セント請フ、徐溫離亂久シク民ノ困
ムヲ以テ引テ還ル、晉德勝ノ北城ヲ廣メ日ニ梁
人ト争フ、大小百餘戰五ニ勝負アリ、

後唐紀、姓ハ朱邪氏、沙陀ノ人、唐
元同光、晉王存勗皇帝ト稱ス、國ヲ唐
號ス、北ニ傳國璽

ヲ得タリ、將佐皆賀ス。宦官張承業諫テ曰ク、吾王
世々唐室ニ忠ナリ、遽ニ大位ニ即クハ、從來征伐
ノ意ニ非ス。王何ソ先朱氏ヲ滅レテ、唐ノ後ヲ立
テサル。梁王彥章ヲ遣リテ、鄆州ヲ攻ム。唐主之ヲ
救フ。梁ノ師敗績ス。彥章之ニ死ス。唐主大梁ニ入
ル。梁主瑱自殺ス。梁亡フ。彥章驍勇ナリ、一ノ鐵槍
ヲ持シテ、突奮疾飛フカ如シ。軍中王鐵槍ト號
ス。戰敗レテ擒ニ就キ、遂ニ殺サル。唐主幼ニレテ
音律ヲ善ス。時ニ優人ト戲ル。優名ヲ李天下ト曰
フ。唐主繼岌、郭崇韜ヲ遣リテ、蜀ヲ伐ツ。王衍降

ハ

四年、明宗
天成元年

魏王繼岌、郭崇韜ヲ殺ス。崇韜素ヨ
リ宦官ヲ疾ム。蜀ニ淹滯シテ未、還ラズ。唐主宦者
向延嗣ヲ遣リテ之ヲ促ス。崇韜出テ迎ヘス。延嗣
怒ル。歸リテ之ヲ、劉后ニ譖ス。后帝ニ訴ヘ、且密ニ
繼岌ヲシテ崇韜ヲ殺サシム。繼岌曰ク、彼釁端ヲ
シ、敕ナクシテ招討使ヲ殺スヘケンヤ。使者巧ニ
利害ヲ陳ス。繼岌遂ニ之ヲ誘殺ス。唐ノ鄴都亂レ
趙在禮ヲ帥トス。李紹榮ヲ遣リテ詔討ス。トモ
服ヤス。李嗣源ヲ遣リテ之ヲ討ス。嗣源至ル、其軍
嗣源ヲ擁シテ城ニ入り、以テ河北ニ帝トヤント

々嗣源在禮ニ詭説シ脱シテ相州ニ奔ル紹榮奏
 ス嗣源賊ト合スト嗣源上章シテ自理スレトモ
 通セス石敬瑭因リテ嗣源ニ説テ大梁ヲ取リテ
 之ニ據ル唐ノ伶人郭從謙其主存勗ヲ弑ス唐主
 從謙ニ感レテ曰ク汝カ黨我ニ負キ從謙郭崇韜
父ト又王温ヲレテ反覆セシム温禁中ニ宿衛何
レテ亂ヲ謀ル何
 ヲ爲ント欲スルヤ從謙恐ル禁門ニ火ス唐主流
 矢ニ中リテ殂ス李嗣源洛陽ニ入ル斬衰シテ即
 位ス明宗皇帝諱ハ嗣源名ヲ重ト唐天成
更ハ充用ノ養子二年唐
 馮道崔協ヲ同平章事トス石敬瑭ヲ六軍諸衛使

トス郭從謙伏誅ス吳王楊溥帝ト稱ス唐長興
元年
 唐主其子從榮ヲ秦王トシ從厚ヲ宋王トス二年
 唐石敬瑭ヲ河東節度使トス四年閩主王延鈞帝
 ト稱ス唐孟知祥ヲ蜀王トス尋テ帝
ト稱ス唐主其子從
 珂ヲ潞王トシ秦王從榮ヲ天下兵馬ノ元帥トス
 唐主疾病ス秦王從榮驕狠ナリ唐主已ニ殂スト
 謂ヒ兵ヲ引テ天津橋ニ陳ス唐主夫ヲ指シテ泣
 下ルコト度久レ既ニシテ從榮兵潰エテ伏誅ス
 群臣入見ス唐主兩泣シテ曰ク吾家事此ニ至ル
 卿等ヲ見ルコトヲ慙ツ遂ニ殂ス從厚立シ閩

帝諱ハ從厚明 唐應順元年唐主唐潞王從珂宗ノ第五子、從珂清泰元年

河東節度使トス、從珂兵ヲ鳳翔ニ舉ク、唐兵ヲ遣

リテ之ヲ討ス、官軍潰ニ、潞王長安ニ至ル、招討使

康義誠降ル唐主衛州ニ奔ル、潞王洛陽ニ入リ其

主從厚ヲ廢シテ自立ス、廢帝諱ハ從珂、本姓ハ王氏明宗ノ養子

唐ノ河東節度使石敬瑭入朝ス、唐王敬瑭ト素相

悅ハス、時ニ敬瑭病テ羸瘠ス、唐主見テ虞トセス、

復鎮ニ遣ル、唐清泰二年契丹遣ニ入ル、唐ノ北面總

管石敬瑭兵ヲ將井テ忻州ニ屯ス、閩ノ李傲其主

瑋ヲ弑シ、福王繼鵬ヲ立ル、名ヲ更ム、荆南節度使高

從晦性明達ナリ、梁震ニ委任レテ之ニ兄事ス、身

ヲ修メ刑ヲ省キ賦ヲ薄ス、境内以テ安レ、是ニ於

テ震老ヲ告ク、三年晉石敬瑭大福元年、唐石敬瑭ヲ天平節

度使トス、敬瑭將佐ニ謀リテ曰ク、主上我ニ面許

ス、終身代除セスト、今忽是命アリ、安ンソ手ヲ束

子テ道路ニ死ナンヤ、劉知遠桑維翰等皆勸メテ

命ヲ拒マレム、唐主兵ヲ發レ之ヲ討ス、敬瑭救ヲ

契丹ニ求メ臣ト稱ス事捷タハ地ヲ割カント約ス

契丹主耶律德光大ニ喜ビ、兵ヲ發ス、唐ノ兵大敗ス契

丹敬瑭ヲ立テ、晉皇帝トス、敬瑭幽薊十六州ヲ

漢書卷一百一十五

割キテ之ニ賂ス契丹主晋主ト南下シ又唐ノ兵ヲ破リテ潞州ニ至ル契丹ハ北還シ晋主ハ南下ス唐主自焚シテ殂ス晋主洛陽ニ入ル

後晋紀姓ハ石氏本西夷景族ノ子晋王李胤用ニ從テ雲翔ニ起ル大梁ニ都ス高祖皇帝諱ハ敬瑭後唐晋天福二年吳ノ徐知誥帝

ト稱シ國ヲ唐ト號ス異主ヲ讓皇トス諱ハ李氏名ハ昇楊行密ノ時徐溫ニ乞ヒテ徐氏ヲ冒ス知誥ト名ス太和申齊王ニ封セラハ是ニ於テ楊溥位ヲ傳フ復ス契丹遼ト改號ス四年閩ノ王曦其主王昶ヲ弒シテ自立ス後帝ト稱ス六年唐使ヲ晋ニ遣ハス唐主即位ヨリ江淮豐稔兵食餘アリ群臣舊

疆ヲ恢復スヘキヲ勸ム唐主曰久吾軍旅ニ生長シ兵ノ害タハラ知ル彼ノ民安クハ吾民モ安シ又何ヲカ求メン晋ノ成德節度使安重榮契丹ノ使ヲ執ヘ上表シテ之ヲ伐タント請フ晋主其跋扈ヲ憂ヘテ劉知遠ヲ北京ノ留守トス重榮反ス討破シテ之ヲ斬ル七年漢主劉龔殂ハ子玢嗣久晋主敬瑭殂ス兄ノ子齊王重貴立ク出帝諱ハ重貴高祖儒ノ子閩主王曦ノ弟富沙王延政帝ヲ建州ニ稱シ國ヲ殷ト號ス唐主昇卒ス子璟立シ南漢主トシ七年玢玢ヲ弒シテ自立ス名ヲ晟ト更

六晉契丹ノ回圖使喬榮ヲ執ス既ニシテ之ヲ歸
ヘス初晉主敬瑭契丹ニ謹事ス重貴立チテ景延
廣主議シテ哀ヲ告ルニ臣ト稱セス契丹大ニ怒
ル桑維翰遜辭シテ契丹ニ謝セント請フ毎ニ延
廣ニ沮メラル晉開運元年契丹主晉ノ澶州ヲ攻ム
克タスシテ還ル關ノ指揮使朱文進其主曦ヲ弑
シテ自立ズ文進連重遇ト既ニ王祖ヲ弑ス國人
ノ討センコトヲ懼レテ竟ニ曦ヲ弑ス關人相帥
以討謀ミ之ヲ斬テ二首ヲ殷ニ送ル明年契丹
改出チ降ル契丹ハ寇ス晉主劉知遠ニ

命シテ兵ニ山東ニ會セシム知遠至ラス晉主曰
久河東知遠河東節度使タリ必異圖アラン晉開運二年契丹
復入リテ相州ニ至リ引テ還ル晉主自將トシテ
之ヲ追フ劉知遠曰久中國自守ルニ足ラス乃橫
ニ疆胡ニ挑シ勝ツモ後患アリ況ヤ勝タサルヲ
々冬契丹大舉シテ晉ニ入ル招討使杜重威等契
丹ニ降ル契丹大梁ニ入リ晉主ヲ執ヘテ歸ル桑
維翰ヲ殺シ景延廣ヲ囚ス天福十二年
漢ト改号ス契丹ノ
耶律德光大梁ニ入ル胡兵四出劫掠シ打州殺ト
號ス民其毒ヲ被リ遠近怨歎ス漢祖劉知遠太原

ヨリ起ル州鎮多ク契丹ノ守將ヲ殺シテ漢ニ歸ス、德光大ニ懼レテ北歸ス、知遠帝ヲ晉陽ニ稱ス、

後漢紀 姓ハ劉氏沙陀ノ人、大梁ニ都ス

高祖皇帝 諱ハ知遠名ヲ高ト更々 契丹ノ德光大梁ヲ發シ

殺胡林ニ至テ死ス、國人其腹ヲ割キ、鹽ヲ實テ、

載セ去ル、晋人之フ帝紀ト謂フ、子元欲自立ス、劉

知遠大梁ニ入ル、國號ヲ漢ト改ム、漢杜重威ヲ歸

德節度使トス、重威命ヲ拒ム、討テ之ヲ降ス、後伏

誅ス、 漢乾祐元年 漢主殂ス、周王承祐立ツ、 隱帝

承祐高祖ノ弟ニ子 漢主承祐其、樞密使楊邠侍衛

指揮使史弘肇三司使王章ヲ殺ス、漢主即位ヨリ、

邠ハ機務ヲ總ヘ、郭威 樞密使 ハ征伐ヲ主リ、弘肇ハ

宿衛ヲ典リ、章ハ財賦ヲ掌リ、供饋乏シカラス、左

右臂倖之ヲ嫉ミ、遂ニ謀リテ邠等ヲ殺ス、又使ヲ

遣リテ威ヲ殺サントス、克タス、威兵ヲ舉ケテ反

ス、漢主亂兵ニ弑セラル、威太后ニ白シ、寧武節度

使劉贊ヲ迎立セントス、契丹入寇スト聞テ又往

テ澶州ニ至ル、將士大ニ譟キ、黃旗ヲ裂テ威ニ被

セ共ニ抱持シテ萬歲ト呼ビ、威ヲ擁シテ南行ス、

威遂ニ漢ニ代ル

後周紀

姓ハ郭氏、邢州堯山ノ人、大梁ニ都ス、

太祖皇帝

諱ハ威、少ニレテ賤レ、飛雀ヲ其頭上ニ點ス、世郭雀兒ト謂ス、

周廣順元年

年、郭威皇帝ト稱レ、國ヲ周ト號ス、漢ノ湘陰公贇

ヲ弑ス、河東節度使劉崇隱帝害セラルト聞テ、兵

ヲ舉ケント欲ス、贇カ立ツヲ聞テ喜テ曰ク吾兒

帝タラハ何ヲカ求メント、贇廢死セラレ、崇乃帝

ヲ晉陽ニ稱レ、是ヲ北兵ヲ遣リテ周ヲ伐ツ、契丹

主兵ヲ引テ會セントス、會、燕王述乾亂ヲ作レ、契

丹主ヲ弑シテ自立ス、述律討殺レテ之ニ代ル

世宗皇帝

諱ハ榮、本姓ハ柴氏、太祖ノ后ノ兄守禮ノ子、晉王ヲ封セ、

周顯德元年

周主威殂ス、晉王榮立ツ、周ノ太師中書

令馮道卒ス、道唐ノ莊宗ノ世ヨリ累朝將相公師

ノ位ヲ離レス、北漢王昺殂ス、子鈞立ツ、二周王

朴ヲ諫議大夫知開封府事トス、時ニ群臣多ク常

ヲ守リ、安ヲ偷ム、惟朴神峻氣勁、謀アリテ能斷ス、

周主之ヲ重ス、三年、周主趙匡胤ニ命シ、唐ノ滁州

ヲ襲ハレメテ之ニ克テ皇甫暉姚鳳ヲ清流關ニ

擒シ、周趙匡胤ヲ定國節度使兼殿前都指揮使ト

ス、匡胤趙普ヲ表シテ節度推官トス、五年、周主自

將トシテ江ニ臨ミ、水軍ヲ遣リテ唐ノ兵ヲ擊破

T11
25
K02

ス、唐江北 地ヲ獻シ帝號ヲ去リ周ノ正朔ヲ奉
ス、南漢主晟殂ス、子鋹立ス、本年周ノ淮南飢ユ、之
ニ貸ス、或曰ク、民恐ラクハ償フコト能ハサラン、
周主曰ク、民ハ吾子ナリ、子倒懸シテ父爲ニ解カ
サルモノアラシヤ、周主自將トシテ契丹ヲ伐チ
瀛莫易ノ州ヲ取ル、幽州ニ趨カントシテ疾アリ、
還シ、周趙匡胤ヲ殿前都點檢トシ、周主榮殂ス、梁
王宗訓立ツ、世宗ノ第四子周主聰察神バ如キ、常
ニ言フ朕必喜ニ因テ人ヲ賞シ、怒ニ因テ人ヲ刑
セス、

科 会 社